平成 28 年 度

八代市議会建設環境委員会記録

審 査 ・ 調 査 案 件

- 1. 6月定例会付託案件 …………… 2
 - 1. 所管事務調査 …………… 47
-

平成 28 年 6 月 14 日 (火曜日)

建設環境委員会会議録

平成28年6月14日 火曜日

午前10時03分開議

午後 2時49分閉議（実時間215分）

委員 野崎伸也君
委員 古嶋津義君
委員 増田一喜君
委員 松永純一君
委員 村上光則君
委員 百田隆君

○本日の会議に付した案件

1. 議案第67号・平成28年度八代市一般会計補正予算・第2号（関係分）
1. 議案第71号・平成28年度八代市下水道事業会計補正予算・第2号
1. 議案第72号・専決処分の報告及びその承認について（平成27年度八代市一般会計補正予算・第10号（関係分））
1. 議案第77号・専決処分の報告及びその承認について（平成28年度八代市一般会計補正予算・第1号（関係分））
1. 議案第80号・専決処分の報告及びその承認について（平成28年度八代市下水道事業会計補正予算・第1号）
1. 議案第82号・契約の締結について（八代市環境センターマテリアルリサイクル推進施設建築工事）
1. 議案第83号・契約の締結について（八代市環境センターマテリアルリサイクル推進施設プラント設備工事）
1. 議案第84号・契約の締結について（八代市環境センターマテリアルリサイクル推進施設建築電気設備工事）
1. 請願第2号・障がい者に対する就労・雇用機会の確保について・第1項
1. 所管事務調査
 - ・都市計画・建設工事に関する諸問題の調査
 - ・生活環境に関する諸問題の調査

○本日の会議に出席した者

委員長 福嶋安徳君
副委員長 中山諭扶哉君

※欠席委員 君

○委員外議員出席者中発言の許可を得た者

君

○説明員等委員（議）員外出席者

市民環境部長 堀 泰彦君
市民環境部次長 國岡雄幸君
環境センター建設課長 山口敏朗君
廃棄物対策課長 山口修君
廃棄物対策課長補佐 坂口初美君
廃棄物対策課副主幹兼
廃棄物対策係長 谷口徹君
廃棄物対策課副主幹兼
施設管理係長 稲本健一君
建設部長 閘賢一君
建設部総括審議員
兼次長 植野幹博君
下水道建設課長 福田新士君
建築住宅課長 宮端晋也君
下水道総務課長 古田洋二君
下水道総務課経営係長 松下健二君
財務部長 岩本博文君
契約検査課長 山本洋治君
契約検査課長補佐 一美晋策君

○記録担当書記 鶴田直美君

（午前10時03分 開会）

○委員長（福嶋安徳君） それでは、皆さん、おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）

開会前に、このたびの震災が、4月14日から16日にかけての、大きな震度7の災害がございました。熊本地震ということで、本当に委員の皆さんも、執行部の皆さんにおかれまして、本当に、この地震に対しては、いろんな皆さん方が震災対応をしていただいで、本当にありがたく思っているところでございます。

市民の皆さんも、やはりこういった大災害ということで、初めての経験ということで、本当に戸惑った気持ちがございます。今も、まだまだ避難生活をされておられる方々もたくさんおられます。そういう方々に、本当にお見舞い申し上げますとともに、皆さん方が元気で、今後対応していただきますようお願いしたいというふうに思っております。

皆さんにおかれましても、今後、まだまだ余震が続いております。そういった中でも、市民の皆さんに対して、皆さん方が元気づけていただければ幸いかと思っております。今後も対応をよろしくお願い申し上げます。

それでは、定刻となり、定足数に達しておりますので、ただいまから建設環境委員会を開会いたします。

本日の委員会に付します案件は、さきに配付してあります付託表のとおりであります。

◎議案第67号・平成28年度八代市一般会計補正予算・第2号（関係分）

○委員長（福嶋安徳君） それでは、最初に、予算議案の審査に入ります。

まず、市民環境部から、議案第67号・平成28年度八代市一般会計補正予算・第2号中、当委員会関係分を議題とし、説明を求めます。

歳出の第4款・衛生費、及び第10款・災害復旧費中、市民環境部所管分について、説明願います。

○市民環境部長（堀 泰彦君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あ

り）市民環境部の堀でございます。

本委員会に付託されました議案のうち、議案第67号・平成28年度八代市一般会計補正予算・第2号の衛生費及び災害復旧費中、市民環境部の本委員会付託分につきまして、國岡次長より説明させますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○市民環境部次長（國岡雄幸君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）市民環境部次長の國岡でございます。よろしくお願いいたします。済みません、着座して説明いたします。よろしくお願い致します。

○委員長（福嶋安徳君） はい、どうぞ。

○市民環境部次長（國岡雄幸君） それでは、議案第67号・平成28年度八代市一般会計補正予算・第2号について、市民環境部が願っております、本委員会付託分の補正予算の内容について御説明いたします。

済みません、補正予算書の3ページをごらんいただきたいと思っております。

歳出の款4・衛生費、項2・生活環境費に1億3370万円、及び款10・災害復旧費、項3・厚生施設災害復旧費に1億1794万6000円の補正を、このたびお願いしております。

次に、目ごとの補正の内容でございますが、補正予算書15ページをごらんいただきたいと思っております。このページの下段のほうをごらんいただきたいと思っております。

款4・衛生費、項2・生活環境費、目3・廃棄物対策費に1億3370万円の補正予算をお願いしております。その内訳につきましては、ごらんのとおり、節19・負担金補助及び交付金といたしまして、1億3370万円でございます。

今回の補正につきましては、環境センター建設に伴い、エネルギー改修推進施設において、高圧蒸気を用いて発電し、それを売電して運営

費の財源とすることを計画しておりまして、九州電力の変電所、これは古閑変電所でございますけれども、からの、環境センターまで特別高圧配電線の機器と引き込み工事が必要となるため、この工事について負担金を、九州電力に支払うものでございます。

この本事業につきましては、この特定財源であります国からの交付金、詳しく申しましたら、環境省の循環型社会形成推進交付金でございますけれども、この交付金を平成28年度に要望していたところ、国からの平成27年度交付の前倒し調査を受けまして、同予算を、さきの平成28年3月議会に御提案いたしまして、議決、承認いただいておりますが、平成27年度の交付が見送られたことが、年度末に判明したため、今回改めて提案するものでございます。なお、本事業につきましては、平成28年度での同交付金の内示を既に受けております。

また、議決、承認いただいた平成27年度関連予算につきましては、この後、御審議いただきます専決処分により、その全額を減額いたしております。

なお、補正額の財源内訳につきましては、記載のとおり、特定財源として国庫支出金を、改装事業費の3分の1の補助率といたしまして、4456万6000円、地方債を1460万円を予定しております。

続きまして、補正予算書の18ページをごらんいただきたいと思います。

款10・災害復旧費、項3・厚生施設災害復旧費、目2・衛生施設災害復旧費に1億1794万6000円の補正予算をお願いしております。その内訳につきましては、熊本地震損壊家屋等解体撤去事業といたしまして、節13に委託料1億1794万6000円でございます。

この事業内容でございますけれども、今般の平成28年度熊本地震で甚大な被害を受け、罹災証明におきまして、全壊、大規模半壊、また

は半壊の判定を受けた家屋等を所有者等の同意を得たものについて、本市が被災者にかわって専門業者に委託し、損壊家屋等を解体、撤去するものでございます。

補正額の財源内訳につきましては、記載のとおり、特定財源といたしまして、国庫支出金を事業費の2分の1補助ということで5897万3000円、それから、一般財源の中に入っておりますけれども、残りの4割相当額をですね、特別交付税で対応するというところで予定をされております。

以上、議案第67号・平成28年度八代市一般会計補正予算・第2号のうち、市民環境部がお願いしております本委員会付託分の補正予算の内容についての御説明といたします。御審議のほどよろしく願います。

○委員長（福嶋安徳君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

○委員（野崎伸也君） 済みません、まず、質疑の前にですね、今回部長のほう、かわられて、私初めて、ここにですね、お会いして、市民環境部としての今後の、地震対応とかいろいろありまして、非常に大変な中でありまして、今後市民環境部が抱える問題としてはです、新しい環境センターの建設の工事もありますし、その他いろいろな訴訟の関係も、まだ残ってますというようなところもありまして、部長としてどのような方針を持ってですね、取り組んでいかれるのか、まず、そこをですね、お聞かせいただければというふうに思います。よろしく願います。

○市民環境部長（堀 泰彦君） 環境委員会の部分だけでよろしゅうございますか。（委員野崎伸也君「はい、それでよろしいです」と呼ぶ）わかりました。

ただいま御指摘いただきましたように、そもそも市民環境部のほうにおきましては、大きく

は、八代市民の長い間の願いでありました環境センターを建設するという非常に大きい仕事がございます。そして、廃棄物、当然その中の廃棄物処理とか、いろいろありますけれども、その中で、裁判も起こされているという状況になっているところでございます。

当然、環境課というところに関しましては、太陽光エネルギー等を行って、市民の皆様方の環境維持をしていくということも当然、課として行っている、これらのものを含めて担当しているわけでございますけれども、それにあわせて、今回地震という大きな、これまでにないような天災に見舞われたところでございますけれども、そういう所々の事情を含めましても、環境センターを工期に間に合うように建設ができるよう、準備をしていく必要があろうというふうに考えているところでございます。

そういう意味で、担当課のほうも、今非常に苦労しているところでございますけれども、情報の収集、業者との調整、そのあたりのコミュニケーションを図りながら、先ほど申しましたように、建設工期が、この地震という天災がありながらもおくれないようにということを努めていきたいと考えております。

裁判につきましても、内容につきましても、弁護士さんのほうとお話をしながら進めておりますが、私たちは、公としまして、公平な入札を行って対応していくということが旨でございますので、そういう中において、市民の方々にも安心して一般廃棄物を出していただける体制をつくっていったって、衛生的な環境になる八代市を維持していくということは非常に大事なことで考えております。そういう意味におきましては、私どもとしては、正しい方法でやっていたということを、裁判の中で主張していくことを進めているところでございます。

その経緯については、ちょっと、この場につきましては、まだ弁護士さんのほうから、余り

お話しはされないようにという指導も受けておりますので、裁判の中で、市の考えというものを表明させていただければと考えておるところでございます。

トータルとしまして、市民環境部という業務の中におきましては、先ほど少し申し上げましたように、市民の方々が、八代市の中に住まわれる中において、衛生的で安全な市としての環境をつくっていくということが非常に重要と思っておりますので、そういう意味で、環境センターを早くできる方法、そして、現時点でも、当然衛生的な生活を送られる方法を努めていくために、清掃センターの維持管理をしていくことが必要かと考えていると、余り長くしゃべると怒られますので、一応このくらいところで。

○委員長（福嶋安徳君） 一つ、野崎議員に申し上げます。

この議案に対しての関係ない部分については、質疑のほうを、できるだけ差し控えていただくように御配慮願いたいというふうに思います。

先ほどの質問が、ちょっと聞こえない部分があったので、私が、そのところは申しわけなく思っております。

○委員（野崎伸也君） 今、お話しいただいたんで、さらに質問しようと思ったんですけど、やめます。

じゃあ、議案のあれについてですね、ちょっと聞かせていただきたいというふうに思うんですが、済みません、まず、衛生費のところですね、送電線の関係、公金が、27年度予定しとったばってんがもえらなかったんですよと、採択されなかったんですよという、そこら辺の、ちょっと経緯というかですね、中身をもう少し詳しくですね、ちょっと話をお聞きしたいんですけども。

○環境センター建設課長（山口敏朗君） ま

ず、九電負担金、こちらは、次長のほうから説明がありましたように、環境センターで発電するために、特別高圧の電線に併うものですが、これにつきましては、まず、1次計画の交付金スケジュールでの対象年度は、当初28年度としておりました。28年度の予算要求ということで継続をしていたところではあるんですけども、一つ予算を計画するところ、10月に国より交付金の前倒し要望調査というのがありました。この前倒し要望調査の中で、前倒しでできるかどうかちゅうのを検討しましたところ、九電への系統種別の契約申し込みが、平成28年1月にはもう可能だということがわかってきましたので、その時点をもって着手ということが考えられるということ、それは検討協議の中でもわかってきたことですので、それでは、27年度の予算でもらえたらいいということで、その前倒し要望調査に、この九電負担金を国のほうに要望として上げさせていただいたところですよ。

これに伴い、九電負担金に対する交付金が、27年度の補正予算で来ることになるんであれば、3月補正で上げておかなければならないというのが財政当局との協議だったものですから、3月補正のほうに上げさせていただいたところですよ。

ただ、結果といたしまして、国の補正のほうで、九電負担金の分が含まれない形になったものですから、再度、これを28年度のほうに、計画のほうを修正を整えまして、28年度の交付計画ということで、国のほうに上げたところですよ。28年度のほうでは、これを、九電負担金につきましては、交付金の対象事業ということで承認されまして、その内示を受けるところで、一応、国からの交付対象にならないというお答えが、2月の29日、県のほうから状況がわかったものですから、このときには、既に補正予算のほうを上げさせていた

だいた状況だったものですから、先ほど、國岡次長が、後での専決処分のほうでの全額減額という手続をしてありますけれども、その手続をとらせていただいて、改めて28年度の6月の補正予算に上げさせていただいたということですよ。

○委員（野崎伸也君） 済みません、経緯的なところを説明していただいたんですけども、今の話を聞くと、八代市の手順としてはですね、間違ってたのかなというふうに思うんですよ。ただ、さっき質問した内容ですよ、趣旨として、何で国のほうが見送られたのかという、ここをちょっとお聞きしたいという話なんですけど、ここがちょっと抜けていたと思うんですけど。

○環境センター建設課長（山口敏朗君） 国のほうは、この交付金とか、いろいろなものを含んでおまして、例えば、合併浄化槽を対象とした交付金でありますとか、こういったものが、いろんな交付金の内容がございます。その中に、うちの環境センター建設事業にかかわる交付金のほうもあるんですけども、国のほうは毎年調査をして、全額を補正を、多分捉えようとして調査をされたんだと思います。ところが、来ました内容につきましては、うちの九電負担金を含めた事業費分が、八代市のほうには、額が含まれてなかったということですよ。

そのあたりにつきましては、ちょっと我々ではそれ以上のことはわからない部分ですので、ただ、環境省のほうと県とお話をさせていただきまして、これにつきましては、また、28年度に戻すことで、交付対象事業としてできますというお答えだったものですから、我々としては、28年度分に戻させていただいたということですよ。

○委員（野崎伸也君） 済みません、不備な対応があってですね、国のほうから交付されな

ったのかなというふうな思いもあったんですけども、ちゃんと対応されているということで安心しました。

また28年度は確実に上げるということで、事業のほうも実施されていくと思いますので、対応のほうよろしくお願ひしたいというふうに思います。

あと、済みません、熊本地震の損壊家屋解体撤去事業についてなんですけれども、済みません、これが予算的などところで、1億1794万6000円ということで、内訳的には、全壊が35棟、半壊78棟、想定してますというようなことなんですけど、これで十分に足りるというような数字だったのでしょうか。

○市民環境部次長（國岡雄幸君） 今の御質問は、このたびの委託料1億1790万6000円で十分な対応ができるかということでございますけれども、この委託料の積算につきましては、5月27日現在で、財政課のほうで予算要求した数字を、そのまま御提案させていただいております。

中身をちょっと触れさせていただきまして、いわゆる処理単価というのがございまして、トン当たりの処理単価につきましては、事前の県の説明会がございました。そこで指名されたのがですね、新潟県の中越地震を参考に、県から処理単価が、トン当たり約3万3000円ぐらいかかるだろうということで示されております。その後、今度は、うちのほうの関係で、内部のほうでですね、罹災証明の関係で、資産税課が窓口になりますけれども、そちらのほうの情報提供によりまして、全壊件数が35件、それと、これは半壊も含みますけれども、それと、半壊件数が78件という把握をしております。今後、これで十分かどうかということになりますと、なかなか不透明な部分がありますけれども、なかなか把握しづらい数字がございますもんですから、とりあえず、今把握できる

範囲内での積算をいたしまして、今回御提案をしたという経緯でございます。

済みません、追加でございますけれども、半壊につきましては、いわゆる全部が撤去に申請されるのかというのが、なかなか不透明でございます、例えば、リフォームをされてですね、修理をされるという可能性もありますもんですから、そういうことも含めましてですね、今回の御提案ということでいたしております。

以上でございます。

○委員（野崎伸也君） きのうですね、市長の提案理由説明の中で、いろいろ全壊、半壊とかという話の数字的などところを言われまして、きのうの時点では、全壊10棟、大規模半壊25棟、半壊127棟、一部損壊、破損が1036棟というような話をされましたので、予算的には、多分この数字よりは多く見積もられているのかなというような思いがありました。

あと、この間の全員協議会の中で質問もあまして、農機具の関係とか、そういったところはどぎゃんなつかいというような話もあったんですけど、そこ辺、ちょっとうやむやな答えだったんですけど、結果的に、検討は、もうされていると思うんですけども、そこら辺のところ、ちょっと聞きたいんですが。

○市民環境部長（堀 泰彦君） ただいま御指摘ありました、議案説明のときお尋ねがありました件でございますが、今回の、私ども市民環境部が担当します損壊家屋の撤去につきましては、農機具等を含んでおりません。家屋等が主でございますので、農機具等につきましては、農林水産部のほうでの対応関係の中で対応しますので、そういう方がいらっしゃったら、相談いただきたいという部長からの回答があったところでございます。

○委員（野崎伸也君） これの事業的なものは、議会が終わって、予算が議決されてからの御案内というふうになっていくと思うんですけど

れども、今時点で、そういった御案内のやり方とか、どういった、多分やり方的に迷われる方もたくさんおられると思うとですよね。自分のところは該当するのか、しないのかとか、そういったところで、非常に細かな部分まで決めていかんと、非常に難しいのかなというふうに思いますし、あと、周知の問題も非常に難しいと思うとですよね。そこら辺のところはどきょんふうに、いつからやるとか、計画があれば、ちょっと教えてほしいんですけども。

○廃棄物対策課長（山口 修君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）

ただいまの御質問の件でございますけども、これにつきましては、被災後、被災者の皆様方に早く情報を提供するというのもございまして、広報紙等にも載せまして、周知を申し上げます。

それから、半壊以上の皆様方が、事業の該当になるということでございますので、6月6日に121名の方、その発送時、6月1日現在の半壊以上の認定があった121名の方に、ダイレクトメールとか出して郵送で申込書、その他関係書類等を送付しているところでございます。

それに基づきまして、現在申し込み数が11件分の住所でございまして、毎日五、六人程度、以上の来庁者が見えているところでございます。

以上でございます。

○委員（野崎伸也君） 今、早目にですね、そういった半壊がわかっている部分については発送してまずという話で、非常に対応が早くて、非常にありがたいなというふうに思います。

あとは、広報的などところを通して、全市におふれを出して、問い合わせとか、いろいろな部分があると思うんですけども、そういったチラシ的なものとか、そういったものは、全然作

成とかは、今のところはないというところで考えておられるんですか。

○廃棄物対策課長（山口 修君） 今申しましたとおり、事業の範囲が半壊以上ということでございますので、半壊以上の方に集中して周知をする必要があるかと思えます。

それから、あわせて、7月の広報紙におきましても、これについて広報しておりますので、そのところをごらんいただければというふうに考えております。

○委員（野崎伸也君） わかりました。

○委員（中山諭扶哉君） 半壊以上ということでしたけど、半壊の基準というのは、どこにございますか。

○市民環境部次長（國岡雄幸君） 先ほど申しました、県との事前説明会等でですね、半壊の定義が示されておまして、半壊につきましてはですね、床面積の50%以上70%未満の損壊、消失、流出、または、その家屋のですね、損害の割合が20%以上70%未満という定義がございまして。

○委員（中山諭扶哉君） ありがとうございます。

ということは、罹災証明をとるということが前提になるわけですかね。

○廃棄物対策課長（山口 修君） これは国のほうからも事業として半壊以上ということでございます。これまで、東日本地震等では全壊ということだったんですが、今回の熊本地震に限っては半壊以上該当させるということで通知が来ております。

○委員（中山諭扶哉君） 罹災証明の関連性ということでお話をしたんですけど、それについてはいかがですか。

○廃棄物対策課長補佐（坂口初美君） 申請に至っては、罹災証明の半壊以上の証明をいただいているところを、私どものほうの基準にさせていただいているという関係で、そういう再調

査等も御案内しながら、被災者の方に、半壊以上の罹災証明、とられた上での御申請をお願いしますということで、資産税さんのほうが、半壊の罹災証明とかを、申し込みを受けて調査をされている関係から、お願いをしております、その申し込みがあった時点では、こういう事業をやっているということも、あわせて御案内をさせていただいているところでございます。

以上です。

○委員（中山諭扶哉君） ありがとうございます。ありがとうございました。

地域の中でですね、罹災証明をとられているところも非常に多いとは思いますが、逆に、罹災証明がなくて、半壊以上になっているところも、すごく見られるんじゃないかなというふうに思うんですね。要は、居住の方が、例えば、わからないとか、不明な点もあると思うんですけど、そこら辺の対応というのは考えられておりますか。

○市民環境部長（堀 泰彦君） 今のお話としましては、実は、被害は受けているけども、罹災証明をとっていらっしゃらない方が要るんじゃないかなろうかと。私どものほうとしては、半壊以上の罹災証明をとられた方々には、ダイレクトメールを差し上げておるので対応できるけれども、そういう、そもそも、言葉的表現はよくないですけど、もう諦めているとか、そういう方々に関しましてにつきましては、大変申しわけないんですが、先ほどちょっとお話もあったんですが、6月1日時点で、この損壊家屋のことの市報での御案内を差し上げております。そして、先ほど申しあげましたように、7月1日に、また追加して、損壊家屋についての御案内を、市報にて御案内をしているところでございます。そして、受け付け期間が7月いっぱいだったですね。6月から7月いっぱい、この2カ月にわたって申請を受け付ける予定でございま

す。そういう意味で、7月の市報をごらんいただいで、そういう方々がいらっしゃったとすれば、先ほども申しあげました、6月から既に御相談のお電話は、6月1日の市報で御案内して対応しているところでございます。そして、その後6月の十何日だったですかね、ダイレクトメールを差し上げるというような形で、早目に手を打っている状況ですが、もし、お話のように、まだ罹災証明とかをされてなくて、家屋の撤去をしたいという方がいらっしゃったら、この7月1日の市報をごらんになってから、御相談いただければ、まだ7月いっぱいの申請には対応できようかと考えておるところでございます。

○廃棄物対策課長（山口 修君） ただいまの件ですけども、これについては、代理の方の申請ということも受け付けておりますので、代理の方の申請でも対応しております。その点、追加をいたしたいと思います。

○委員（中山諭扶哉君） 空き家バンクの分もありましたけど、空き家についての対応というのは、どうされてますか。

○市民環境部長（堀 泰彦君） 空き家につきましてもですね、対応する予定です。と申しますのは、ご存じかと思いますが、空き家については、罹災証明が発行されません。ですが、空き家について、それが半壊以上になる、かつ人的、物的被害があるか、そのおそれがある場合につきましては、補助対象とするということで進めております。ですから、そういう御相談がありましたら、調査の上対応することになるかと考えているところでございます。

ただし、今申し上げますように、半壊以上であって、かつ、それが人的や物的、あるいは隣の家とかに被害を及ぼすおそれがあるようなときを対象とするのであって、単純に空き家が壊れただけでは対象にならない場合も、当然想定されますので、一応それは、個々のケースで相

談させていただければと考えております。

○委員（中山諭扶哉君） 非常によくわかりました。ありがとうございました。

○委員長（福嶋安徳君） ほかにありませんか。

○委員（松永純一君） 先ほど、野崎委員もちょっと言いましたけれども、以前いただいておる6月3日付のですね、災害速報値では、全壊10棟、大規模半壊25棟、半壊100棟、きのうの市長の提案理由説明では、半壊が127になっただけですね。ですから、10日間で27戸ふえておるということですが、罹災証明の関係があつて、これからもふえていくだろうという気はします。ですから、今回計上されました1億1700万余りのですね、予算で足りない場合には、また、いろんなことをさせていただきたいとは思いますが、これについては、県の補助金ですから、恐らく県がいろいろ示していると思うんですけども、解体撤去処分がですね、トン当たり3万3000円となっておりますね。非常にわかりにくいんですが、市がどこかの業者に委託をして、解体撤去処分をする。そうすると、恐らく単価契約になるだろうと思うんですね。1トン当たりに3万3000円ですよ、実際に、じゃあ、解体撤去して、どこかに持って行って、計量をして、その結果、実績に応じて払うということになるんだろうと思うんですけども、今の時代ですから、なんもかんも一緒ぐるみにはいかんと思うんですね。瓦は瓦、ブロックはブロック、トタンはトタンということになると思うんですが、そのあたりはですね、実績に応じて払うということになるだろうと思うんですけども、実際にはどういったやり方で委託料の支払いはなりますか。

○市民環境部長（堀 泰彦君） 今回のですね、損壊家屋の撤去工事については、非常に、県のほうからの指示がございまして、私ども市町村が御本人、所有者の方々に代行してから、

撤去するわけでございますが、それに当たりましては、熊本県解体工事事業協会というところと、大変申しわけないんですが、随意契約を行って、一括して協会自体がですね、チーム編成を行って建設業協会とか、各市町村の建設業協会、あるいは産業廃棄物協会と連携を行ってですね、指定した業者の方が代表してするような形になっております。いわゆる1ケース、1ケースの家をするのではなくて、八代市自体が、解体工事事業協会と契約を行って、その方々に指示をして、協会は、チーム構成されている協会のメンバーの方々に指示をされて、解体を行うという形になっております。そういう意味で、おっしゃられましたが、あるいは瓦とか木材とか壁材とかいう部分の分別を行う必要がございしますもんですから、そのあたりが担当業者の方で処理をされていくことになるかと思ひます。そういう意味の、単価として3万3000円というのは、全てを合わせた平均単価のような形で指示をされておまして、個別の単価は、また違う処理をしていくことになるかということになるかと考えております。

○委員（松永純一君） 契約はですね、随意契約で協会なりとされるということですが、市が委託料を払う以上、市は確認をせにやいかんと思うんですね。ですから、その確認をどうやって、重量の確認、これが仮にですね、坪数で、木造瓦ぶき2階建ては坪当たり幾らだったら、非常にわかりやすいんですけども、このあたりの単価ということになると、その確認はうまく、最後の確認、支払うための、そこはできるように担保してあるんですか。協会が持っているチキリちゅうか、はかりちゅうかですね、そういうのであるのを、やっぱり市が確認せいかんわけでしょう。その辺はできるようになりますか。

○廃棄物対策課副主幹兼廃棄物対策係長（谷口 徹君） 委員の御質問の内容ですけれども、

まず、解体の場合なんです、県のほうが、環境省からの指示で、県のほうが平米当たりの単価を、解体のときの費用を出して示しております。木造の場合と鉄筋コンクリート、2通り、そして、現場から処分業者のところまで運ぶ運搬料、こちらのほうもですね、キロメートル当たりの単価を出しています。ですので、解体撤去に当たる費用はですね、こちらのほうで計算をやっています。

最終的に、現場から処分業者へ行く場合ですけども、それは品目ごとですね、計量を行うこととしております。処分業者のほうに確認しましたところ、それは可能だということで、産業廃棄物の場合はマニフェストで品目ごとの計量を行ってしますので、それは可能ということでした。

ですので、解体撤去の場合は、現場で事前に調査をして、解体後、それを確認して完了にかえる、確認にかえる。処分の費用については、計量伝票が上がってきますので、その品目等も上げてもらって、確認ができるということにしております。

以上です。

○委員（松永純一君） はい、わかりました。

そういうですね、説明があつてればいいんですけども、3574トン掛ける3万3000円ですから、非常にわかりにくいですよ。今のうちに、1つの家を解体するのは平米当たりの単価でいきます。運搬については、その距離でいきます。そして、最後の処分についてはトン当たりでしますということであればよかったですけども、その説明があつたらよかったですけども、非常にトン当たりではどうやるんだろうかなという疑問があつたものですから、説明をしたところです。

以上です。

○委員長（福嶋安徳君） それを含めて、詳細についてはですね、各課に行ってお尋ねいた

くことも可能でございます。

○廃棄物対策課長（山口 修君） 済みません、3万3000円の件が、ちょっと説明が不足しておりました。

3万3000円につきましては、県のほうで、各市町村、緊急に予算を組む必要があるだろうということで、東日本震災のときの処理費用の単価が3万3000円であったということで、今申しました、予算を組むときの単価の基準としては3万3000円を使つたらどうかということで示されておりましたので、それを今回採用したものでございます。

その後、今申しました、解体単価等は、後で来ましたので、それに基づいて、概算で3万3000円で行いまして、詳細にわたっては、今申し上げました、国から来た単価で、改めて積算し直して、執行するというものでございます。

○委員長（福嶋安徳君） いいですか。

ほかにありませんか。

○委員（野崎伸也君） 同じ項目ですけど、中小企業の建造物のほうも対応されるというようなことなんですけれども、こちらのほうは、なかなか罹災証明のほうのとれないというふうに思うんですよ。発行を、今、多分八代市のほうでできてないというふうに思うんですけれども、何か簡単なやつの部分は発行できるみたいな感じで、話をちょっと聞いたことがあるんですけども、そういった部分についての対応というのは、どきやんふうにしていかれるとですか。実際、そうやった中小企業からの相談とかが上がってますでしょうか。

○廃棄物対策課長（山口 修君） ただいまの件でございますが、確かにそういう商業施設については、罹災証明は、今出していないところでございます、建設部のほうと協議いたしまして、建築指導課のほうと連携いたしまして、被災の認定等はできないかということで話を進

めているところでございます。

私たちには、どうしてもノウハウがありませんので、建築のプロといますか、資格持っている建築士の皆さん方と協議しながらやっていきたいと思っております。

それから、問い合わせはないかということですが、数件、やはり問い合わせはあっておりますので、ここについても、いずれも県、市予算を含めて、認定等管理をしているところでございます。

○委員（野崎伸也君） わかりました。ありがとうございました。

○委員長（福嶋安徳君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（福嶋安徳君） それでは、ないようです。以上で質疑を終了します。

意見がありましたら、お願いします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（福嶋安徳君） ないようです。

以上で、歳出の第4款・衛生費、及び第10款・災害復旧費中、市民環境部所管分について終了します。

小会します。（「ありがとうございました」と呼ぶ者あり）

（午前10時43分 小会）

（午前10時44分 本会）

○委員長（福嶋安徳君） 本会に戻します。

引き続き、歳出の第7款・土木費について、建設部から説明願います。

○建設部長（関 賢一君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）建設部長の関でございます。

本委員会に付託されました議案のうち、議案第67号・平成28年度八代市一般会計補正予算・第2号の建設部所管分の本委員会付託分について、植野総括審議員兼次長並びに関係課長

より説明いたしますので、よろしく願いいたします。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）建設部次長、植野でございます。

補正予算の第2号につきまして、御説明させていただきます。着座にて説明させていただきます。

○委員長（福嶋安徳君） はい、どうぞ。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） それでは、資料を使いましてですけれども、資料が、議案第67号の平成28年度八代市一般会計補正予算書・第2号、この横長の資料でございます。これを使って御説明いたします。

まず、予算書の3ページをお願いいたします。

歳入歳出予算補正のうちの歳出の一覧表でございます。このうちの真ん中付近の、款の7・土木費を7906万6000円増額補正しまして、計の65億5957万円といたしております。これは、国の補助事業の内示増に伴いまして、項の2の道路橋梁費を増額補正するものでございます。内訳は、16ページで御説明いたします。16ページをお願いいたします。

一番下の表の款の7・土木費、項2・道路橋梁費、目・道路維持費が、補正額で7906万6000円の増額でございます。

補正の内容は、一番右の説明欄にありますとおり、2つありまして、まず、道路維持事業が7593万5000円です。これは、道路の舗装の補修及び災害防除工事を対象とした国の補助事業費の内示の増に伴いまして、予算の増額を行うものが1つ、もう一つが、3月に道路トンネルの詳細点検を実施いたしました。その結果、坂本町にあります大平トンネルというのがありますけど、それが緊急に対策を講じる必要がある状態になっていましたので、

その対策に要する経費を補正するものでございます。内訳は、後で図面等を使って御説明いたします。

もう一つが、道路維持事業（災害関連）、これが313万1000円でございます。これは、今回の熊本地震によりまして、市道ののり面が緩んで、今後の大雨や余震によりまして、落石とか土砂崩壊等が懸念されますので、災害防止を目的としまして、市道ののり面の緊急点検を行うために要する経費を補正するものでございます。

事業箇所等につきましてはですね、別冊の資料、縦長の資料で、右肩に建設環境委員会資料というのがございます。これで御説明いたします。この縦長です。平成28年度6月補正予算と、この中に大きく入っている資料です。

これの1枚をめくっていただきますと、まず、先ほどの舗装補修と災害防除事業についての資料でございます。位置図をつけております。この中で、丸印をずっとつけておりますけれども、青い丸と赤い丸があって、赤い丸が、今回補正で追加する箇所でございます。ちょっと小さいですけども、4カ所ほどございます。

路線名に水色と緑とつけておりますけれども、これは舗装補修が水色で、災害防除が緑でございます。この中で、赤丸の4カ所が追加でございます。

その次のページが、今度は坂本の大平トンネル関係です。

次のページには、位置図を示しております。赤で線を引いているのが、トンネルの場所です。高速道路の横付近になります。

次ページが、トンネルの中の状況写真を添付をいたしております。一番上の2枚は、トンネルの出口と入り口の様子です。

その下、2段目からが、現在の状況ですけども、トンネルの内側にコンクリートで巻いてありますけど、それがひび割れしたり、剥落した

り、あるいは鉄筋が露出していたり、また水漏れ、漏水などが見られまして、点検の結果、早急に対策を講じる必要があるということが判明をいたしました。

次の最後のページをめくっていただきますと、最後が、市道ののり面の緊急点検を行う箇所を示した図でございます。山間部、道路上に、上に斜面があるところの中で、危険性が高いところを中心に点検を行います。

右下に凡例をつけてますけども、合計約188キロを点検する計画でございます。

以上で、28年度八代市一般会計補正予算・第2号の中で、建設部所管の本委員会付託分についての御説明を終わります。御審議をよろしくお願いいたします。

○委員長（福嶋安徳君） それでは、以上の部分について質疑を行います。

○委員（松永純一君） 道路維持事業のですね、今回ののり面の調査をされるということですけども、舗装がですね、以前から少し路肩、路盤が悪くてですね、通行しにくいというものもあったんですけど、今回の地震によって、さらに路肩が緩んでですね、段差がついたりして、舗装をどうしても、これは修繕せないかぬというような状況の中での、そういった把握はどのように考えておられますか。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） 今回の地震の関係につきましてはですね、ちょっと、専決処分の中で、また出てまいりますけどもですね、地震の後で、いろいろ被災箇所を点検したり、また、地元の通報等で連絡いただいて、危険な箇所を把握をいたしております。その箇所で、必要な箇所につきましてはですね、修繕をしたり、災害復旧事業で実施したりということで対応するようにしております。その状況は……。

○委員（松永純一君） じゃあ、後でまた。

○委員長（福嶋安徳君） よかですか。

○委員（松永純一君） はい、いいです。

○委員長（福嶋安徳君） ほかにありませんか。

○委員（野崎伸也君） 済みません、今、大平隧道のほうですね、トンネルのほうの話があったんですけども、工事の期間というのがどれぐらいかかるのかとかいう予想ちゅうか、あれがあれば、ちょっとお話ししたいと思えます。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） 大平トンネルにつきましては、点検結果の状態がわかりました。あとは、対策の工事の内容について、ちょっと設計を行うことになります。設計を行った後で、設計の内容にもよりますが、およそ、今の段階で想定してますのは、半年程度ぐらいの工事期間を要するのかなということで見込んでおります。

○委員（野崎伸也君） わかりました。ありがとうございます。

○委員（古嶋津義君） 旧農免道、現在は県道に移管してございますが、当時は市町村道でありましたが、御承知のとおり、横江大橋が壊れて、県のほうから2年ぐらいかかるであろうというお話を聞いております。それに伴いまして、向こうからいきますと、野崎のしらぬい保育園のところの交差点から県道まで、それと、こちらは北新地の下にくだって、上に上ってきて三大さんとか水野産業、あの横を通過して、郷開の工業団地の横を通過して本通りまで市道がありますが、早急に地震発生後に大型車につきましては、迂回をしていただきたいというふうに県をお願いをして、大型車は、現在通行していませんけど、今迂回をしているところがですね、大型車が大変多うございまして、それと同時に、この鏡に職員の方が分散でたくさんいらっしゃいますので、朝夕は非常なラッシュでですね、道路が、やっぱり市道と県道は路盤が違うのだらうと思えますが、大変路面がめくれた

りしている状況であります。早急な補修をということをお願いをしましたが、県のほうが、維持管理はいたしますというお話も聞いておりますが、その辺の対応について、少しお話をいただきたいと思えます。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） 今おっしゃいました横江大橋です。大体2年ぐらいはかかるのかなというようなお話もあっております。迂回として、市道が、北側、南側、利用されておる。そこが、舗装の厚さも、そういう交通量を想定してないので、薄いところがあり、また狭いところもあるという状況です。

そういうことで、迂回路として、県が使うということですので、まず、1つは、道路市道の構造を守らんといかぬということ、壊れたりするところについては補修をせんといかぬというのが1つございます。それにつきましてはですね、まず、緊急に必要な箇所については、県と協議が始まる前に、市で何カ所か補修をいたしております。この後につきましてはですね、県で補修や補強等の対応をしていただくようにということで、今事務レベルで協議を進めております。あわせて、日々の管理につきましても、県でもらう方向で協議を進めております。県と市で協定を結んで対応していただく方向で、今進めております。

あわせまして、おっしゃいました大型車も通らないよということ、それにつきましても、今、何カ所か注意看板はやっていますけども、あとちょっと、正式な大型の規制ができないかということ、警察と協議をしながら、今ちょっと準備を進めているところです。災害直後と比べると、少しは減ってきておりますけども、まだ入ってきているところがあります。通学路になっているところで危険な状態もあります。ということで、どのような規制、制限をかけた方がいいのか、どの区間をした方がいいのかということですね、今ちょっと、現地の通行の

状況も確認しながら、詰めている状況です。確認でき次第、手続を進めていきたいというふうに思っております。

○委員（古嶋津義君） 今、お話がありました。御存じだろうと思いますが、先ほど申し上げました、鏡しらぬい保育園からこちらに、県道については、今、大型車が通行どめになっておりますが、北新地から三大さんについては、今、大型車が通行をいたしておる状況なんです。それで、路面がですね、めくれたり、ほげたりしている箇所が多々見受けられるわけです。穴ぼこの修理ばされますが、コーナーちいいですか、カーブのところなんかですね、補修されてもすぐですね、路面が違うんだと思いますので、これは早急に対応していただきたいという、住民の方がよく来られて、私に言われますが、どこに言ったらいいのですかと。先ほどお話が、県のほうが維持管理をということ、今お話しがされているということ、直接には市のほうに言って、県のほうに言ってもらうということでしょうか。私は直接県議のほうに言いましたものですから、対応がちょっと早かったかなと思っておりますが、今後その辺のところは、少し大型車が頻繁に通りますし、また、先ほど申し上げましたように、支所の、きょうも駐車場が満杯ですね、一部の弁当屋さんもうかるばってん、地域住民の方は、市の職員がいっぱいで、静寂な環境が壊れてせわらかしかとか、大分苦情もありますものですから、特にその辺のところはですね、しっかりと道路の補修等については、対応していただきたいというふうに思っております。

きょうも何か所か、来る時見てきました。ちょっと穴ぼこがありますので、後で担当課にほうに申し上げておきますので、早急な修理をお願いをしたいと思います。

以上でございます。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） ありがとうございます。

今、お話しいただいた内容も含めましてですね、具体的な箇所を、また県とやりとりして、急いで対応できるように働きかけたいと思います。よろしくをお願いします。

○委員（百田 隆君） 先ほど大平トンネルの説明がございまして、工事が半年ぐらいですかね、かかるということで、私、坂本の状況はよくわからんもんですから、単純な質問ですけども、そうすると、そこは通行どめになるわけですかね。そうしたら、代替道路とかいうのは、どんなふうになるとですか。そのことです。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） トンネルの通行どめですけれどもですね、先ほどの、この資料のほうですね、この縦長の資料の後ろから3枚目に位置図をつけておりましたけど、これでちょっと御説明いたします。後ろから3枚目です。

この右上に、赤で斜めに線が入っているのがトンネルです。約230メートルです。ここを工事中に通れないということです。

迂回はですね、赤線の右のほうからいきますと、上のほうに道路がぐるっと回ってますけども、それが迂回路になります。約2キロ弱ぐらいの迂回の距離がありますけども、工事中はそっちを通っていただくということになります。

○委員（百田 隆君） わかりました。大体わかりました。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） ちょっと真つすぐじゃない道ですよ。

○委員長（福嶋安徳君） よかですか。わかりましたか。

○委員（百田 隆君） はい、わかりました。

○委員長（福嶋安徳君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員（村上光則君） 下水道事業のことでお

尋ねていいですか。

○委員長（福嶋安徳君） これはまだ違う場面です。

ないようです。以上で質疑を終了します。

○委員（古嶋津義君） 1点だけよかですか。

済みません、河川のことですが、激甚指定を受けておりますので、護岸については、現状維持ですね、かさ上げとかなんかですか。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） 河川で、今回災害を受けたところはですね。

○委員（古嶋津義君） 例えば、新川とか、二見の石橋とか、そういうのは。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） 基本的に原形復旧になります。

○委員（古嶋津義君） はい、わかりました。

○委員長（福嶋安徳君） いいですか。

それでは質疑を終了します。答弁ですか。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） 済みません。補助率のかさ上げですか、おっしゃるのは。現場の。（委員古嶋津義君「現場です」と呼ぶ）現場ですね。現場は原形復旧です。

○委員長（福嶋安徳君） それでは、以上で質疑を終了します。

意見がありましたら、お願いします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（福嶋安徳君） ないようです。

これより採決いたします。

議案第67号・平成28年度八代市一般会計補正予算・第2号中、当委員会関係分について、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（福嶋安徳君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

◎議案第71号・平成28年度八代市下水道事業会計補正予算・第2号

○委員長（福嶋安徳君） 次に、議案第71号・平成28年度八代市下水道事業会計補正予算・第2号を議題とし、説明を求めます。

しばらくお待ちください。

○下水道建設課長（福田新士君） こんにちは。（「こんにちは」と呼ぶ者あり）下水道建設課の福田でございます。隣が下水道総務課長の古田でございます。それでは、座りまして、説明させていただきます。

議案第71号・平成28年度八代市下水道事業会計補正予算・第2号につきまして御説明いたします。資料は、別冊の補正予算書でございます。

まず、今回の補正の概要から御説明いたします。下水道事業における補助事業費につきましては、全国的な傾向ではありますが、要望額に対する内示率が年々低下しているような状況にありました。そのような状況を踏まえ、今年度の当初予算につきましても、要望額に対する内示率を、昨年度と同程度に見込んで補助事業費を計上しておりましたが、見込みを上回る率での交付金内示がありましたことから、当初予算額では補助事業費が不足するため、補正をお願いするものでございます。

それでは、補正予算の内容につきまして御説明いたします。お手元の予算書の1ページをお開きください。

第2条では、当初予算第4条、本文括弧中に記載しておりました資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額及びその補填財源につきまして、今回の補正により変更になったものを改めますとともに、資本的収入及び支出の予定額を次のとおり補正するものとしております。

まず、収入では、第1款・資本的収入、第1項・企業債で8230万円を、第2項・補助金で8234万7000円を、それぞれ追加し、資本的収入の補正後の金額を22億6914万9000円としております。

次に、2ページをお願いいたします。支出では、第1款・資本的支出、第1項・建設改良費で1億6469万4000円を追加し、資本的支出の補正後の金額を31億6938万6000円としております。

続きまして、第3条、企業債では、資本的収入における企業債の増額に伴う起債の借入限度額変更について計上しております。

次に、3ページをお願いします。第4条、利益剰余金の処分につきましては、先ほど御説明しました、1ページの第2条における資本的収支の不足額に対する補填財源のうち、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額が、今回の補正により増額になりましたことから、同じ補填財源であります当年度分利益剰余金処分額を1億9100万6000円から1億8609万円へ減額調整するものでございます。

続きまして、5ページからが、下水道事業会計補正予算に関する説明書でございます。

7ページから8ページが、平成28年度八代市下水道事業会計補正予算実施計画となります。

次に、9ページの予定キャッシュフロー計算書、及び10ページから12ページの予算貸借対照表は、予算等の変更に伴いまして修正を行っております。

続きまして、13ページからは、資本的収入及び支出の明細でございます。

まず、収入につきましては、第1款・資本的収入、項1・企業債、目1・企業債で8230万円を追加しまして、補正後の計を12億6360万円としております。

次に、款1・資本的収入、項2・補助金、目1・国庫補助金では8234万7000円を追加しまして、補正後の計を4億1097万1000円としております。

14ページをお願いいたします。支出につきましては、款1・資本的支出、項1・建設改良

費、目1・管渠施設整備費で1億6469万4000円を追加し、補正後の計を12億2701万3000円としております。補正額の内訳は、補助内示の増に伴う管渠築造工事の増額9229万6000円、並びに委託料で、下水道管渠調査業務委託及び八千把地区雨水調整池実施設計業務委託の計7239万8000円の増額でございます。

最後に15ページは、企業債の現在高の見込みに関する調書でございます。

以上で、議案第71号・平成28年度八代市下水道事業会計補正予算書・第2号の説明を終わります。御審議のほどよろしく申し上げます。

○委員長（福嶋安徳君） 以上の部分について、質疑を行います。下水道、ありませんか。

○委員（村上光則君） 新幹線の駅前のアクセス道路に管をいけてあるですよ。あそこ一部残っとつとがあるでしょう、駅のほうにですね、新駅のほうに、裏側になつとかな。あそこは、どうしてあれで残しとつたの。何か問題があつとかな。

○下水道建設課長（福田新士君） 正面の駐車場のところだろうと思いますが、その部分に関しましては、用地買収等のおくれに伴って、うちのほうの工事がおくれておるものでございます。

今のところですね、下水道やらつなぎ込みの要望がっておりますので、通せるルートがないか、もしくは反対側の駅前の通りですかね、そちらのほうへのルートを、今検討して、下水道のサービスにつきましては、できるような形で検討いたしておりますので。

○委員長（福嶋安徳君） 村上議員に申し上げます。この議案に対して関係ないところについては、課に行つて、お尋ねいただけませんか。

○委員（村上光則君） わかりました。

用地買収がでけとらんということですね。わ

かりました。

○委員（古嶋津義君） 今回、国庫補助金、あるいは建設改良事業債、歳入のほうでやる。それから、支出のほうで、工事請負費として9200万ほど、委託料は別にして、9200万ほど計上してございます。単純な話で、少しお聞かせをいただきたいと思います。

北部下水道のことですけれど、千丁処理区、鏡処理区、それぞれ工事請負費、委託料等計上をさせていただきますが、実は、合併前、当時の小川町も含めて、5町村で、人口4万以上というあれがございまして、そのとき、北部下水道、事業団か何か、そういうのを設立をして、この工事にかかったわけでありましたが、それから、おおむね10年ぐらいたったと思いますが、それで終了するかというような、あつたというふうに思っております。当時、去年だったですかね、中島地区に来ましたというのが、下まで来とるばってん、もうこれで終いと言いなつたばってんがという話をお聞きをして、おおむね10年という話だったけ、ひょっとすると終いになるかもしれないという話はしてきましたものの、ここにこれだけ工事請負費というふうに出しておりますので、地元、福田下水道課長がおりますので、詳しいと思いますんで、引き続き、もう少し移動はされるということで理解をしいんですか。

○下水道建設課長（福田新士君） この補正にかかわらずですね、計画は、これまでどおり続けてまいります。

実施していく検討としましては、地元と調整しながら伸ばしていきますので、そこら辺はよろしくお願いしたということです。

○委員（古嶋津義君） 去年かなんか、私が聞いた話は、じゃあ、違うということで理解をしいんですかね。

地区については長島という地区が、有佐の踏切よりちょっと上のほうですね。有佐小学校の

周辺かな。

○下水道建設課長（福田新士君） 今言われた鉄道よりも山手のところだと思いますけど、ルートとしましては、今検討しているのが、鉄道の下越し、もしくは氷川町を通らなければいけないので、そこを横断して持っていく、いろんな検討を踏まえたところで、今のところは実施に向けて考えております。

以上です。

○委員長（福嶋安徳君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（福嶋安徳君） それでは、ないようです。以上で質疑を終了します。

意見がありましたら、お願いします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（福嶋安徳君） ないようです。

これより採決いたします。

議案第71号・平成28年度八代市下水道事業会計補正予算・第2号について、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（福嶋安徳君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

小会します。

（午前11時15分 小会）

（午前11時18分 本会）

◎議案第72号・専決処分の報告及びその承認について（平成27年度八代市一般会計補正予算・第10号（関係分））

○委員長（福嶋安徳君） それでは、本会に戻します。

次に、事件議案の審査に入ります。

まず、第72号・平成27年度八代市一般会計補正予算・第10号中、当委員会関係分に係る専決処分の報告及びその承認についてを議題とし、説明を求めます。

○市民環境部次長（國岡雄幸君） 改めまして、おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）

それでは、議案第72号について説明させていただきます。済みません、着座して説明いたします。

○委員長（福嶋安徳君） はい、どうぞ。

○市民環境部次長（國岡雄幸君） それでは、議案第72号・専決処分の報告及びその承認についての中身につきましては、平成27年度八代市一般会計補正予算・第10号でございますけれども、その中で、市民環境部がお願いしております本委員会付託分の補正予算に関する専決処分の内容について説明をさせていただきます。

済みません、議案書の6ページをごらんいただきたいと思っております。中段でございます。

歳出の款4・衛生費、項2・生活環境費に、補正額欄記載のとおり、1億3370万円の減額補正をお願いしております。

次に、目ごとの補正内容でございますが、議案書13ページをお開きいただきたいと思っております。

上段のほうでございますけれども、款4・衛生費、項2・生活環境費、目3・廃棄物対策費に1億3370万円の減額補正予算をお願いしております。その内訳につきましては、節19・負担金補助及び交付金の1億3370万円の減額でございます。

本件につきましては、先ほど、議案第67号で御説明いたしましたとおり、同予算を3月議会で議決、承認いただきましたが、国からの平成27年度交付が見送られたため、専決処分により歳入・歳出とも同額の1億3370万円を減額するものでございます。

続きまして、議案書7ページをお願いいたします。第2表、2、廃止をごらんください。本予算の減額補正により、関連で予定しております

す繰越明許費、環境センター建設事業1億3370万円につきましても廃止するものでございます。

以上、議案第72号・専決処分の報告及びその承認についての平成27年度八代市一般会計補正予算・第10号のうち、市民環境部がお願いしております本委員会付託分の補正予算の内容についての御説明といたします。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長（福嶋安徳君） それでは、以上の部分について質疑を行います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（福嶋安徳君） ないようです。以上で質疑を終了します。

意見がありましたら、お願いします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（福嶋安徳君） ないようです。

これより採決いたします。

議案第72号・平成27年度八代市一般会計補正予算・第10号中、当委員会関係分に係る専決処分の報告及びその承認については、承認するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（福嶋安徳君） 挙手全員と認め、本案は承認されました。（「ありがとうございます」と呼ぶ者あり）

◎議案第77号・専決処分の報告及びその承認について（平成28年度八代市一般会計補正予算・第1号（関係分））

○委員長（福嶋安徳君） 次に、議案第77号・平成28年度八代市一般会計補正予算・第1号中、当委員会関係分に係る専決処分の報告及びその承認についてを議題とし、説明を求めます。

○市民環境部次長（國岡雄幸君） 市民環境部次長の國岡でございます。

それでは、議案第72号に引き続き、議案第

77号につきまして御説明いたします。済みません、座って説明させていただきます。

それでは、議案書の53ページをごらんいただきたいと思います。

議案第77号・専決処分の報告及びその承認についてでございます。内容につきましては、平成28年度八代市一般会計補正予算・第1号で、今回の熊本地震で被害を受けました施設の災害復旧費及び災害関連予算につきまして、平成28年5月13日に、緊急に専決処分を行ったものでございます。その中で、市民環境部が所管しております補正予算の内容について御説明いたします。

それでは、議案書の59ページをお願いいたします。お聞きいただきたいと思います。

その中で、款4・衛生費、項2・生活環境費で5515万9000円、及び款10・災害復旧費、項3・厚生施設災害復旧費で1億8837万2000円を計上しております。

続きまして、議案書の69ページをお願いいたします。

款4・衛生費、項2・生活環境費、目5・塵芥処理費に、ごみ処理施設運営事業、災害関連といたして5515万9000円を計上しております。

この関連でございますけれども、清掃センターでは、今回の熊本地震により震度5の地震が発生したことにより、施設の破損や焼却炉の安全確認のため運転を一時停止し、施設及び焼却炉の点検を実施いたしております。この間、通常の運転ができないため、清掃センターで焼却できないごみを、緊急的に市外へ緊急搬出等を行うものでございます。つきましては、その関連経費をお願いするものでございます。

まず、節11・需用費166万9000円につきましては、緊急的に増加した搬入ごみの悪臭・害虫対策用の消臭・防虫剤などの消耗品費でございます。続きまして、節13・委託料4

655万7000円につきましては、焼却炉稼働停止に伴う一般廃棄物の市外搬出及びその処理に係る委託料4482万9000円が主なものでございます。節14・使用料及び賃借料60万円は、一般廃棄物の搬出に要するタイヤショベルのリース料でございます。節15・工事請負費610万2000円は、地震後に増加した搬入ごみを一時的にストックするためのストックヤードを設置するためのものでございます。節16・原材料費17万4000円は、バリケード等の購入に要するものでございます。節18・備品購入費5万7000円は、非常時の緊急連絡用としてのトランシーバー購入に要するものでございます。

続きまして、議案書の73ページをごらんいただきたいと思います。

款10・災害復旧費、項3・厚生施設災害復旧費、目2・衛生施設災害復旧費に1億8472万6000円を計上しております。そのうちの1億8264万5000円が、市民環境部が所管します生活環境施設復旧1カ所分、すなわち清掃センターの復旧に要する経費8053万9000円と、災害復旧ごみ収集経費といたしまして1億210万6000円でございます。

まず、節11・需用費8270万7000円のうち8053万9000円が、今般の熊本地震により被災いたしました市民環境部が所管します清掃センターの復旧に要する修繕料でございます。この清掃センターの復旧の修繕料8053万9000円の内訳につきましては、別添、お手元に配付いたしました資料、地震災害状況説明資料のとおり、被災によるコンプレッサー3台取りかえ、焼却炉煙道修理、センター地下室部分の耐震補強補修が主なものでございます。詳細につきましては、別添資料を御参照いただきたいというふうに思っております。

また、需用費の中の印刷製本費8万7000円、及び節12・役務費11万2000円につ

きましては、次の節13・委託料で詳しく説明いたします災害廃棄物の仮置き場の設置を周知するための新聞折り込みチラシ作製及びその折り込み手数料でございます。続きまして、節13・委託料といたしまして1億190万7000円をお願いしておりますけれども、これにつきましては、災害復旧ごみ収集経費といたしまして、災害廃棄物の仮置き場の設置に要する経費でございます。

今般の熊本地震による災害廃棄物を受け入れるため、八代市水処理センターと鏡支所東側の駐車場の2カ所で、今般仮置き場を開設いたしております。

それぞれの開設期間は、平成28年4月22日から24日までの3日間、5月に入りまして、5月7日から8日までの2日間、それと、5月14日から15日までの2日間、延べ2カ所で14日、期間といたしましては7日間の開設となりました。

2カ所の仮置き場では、タンス、棚、外壁材、コンクリートブロック、瓦類、ガラス、陶磁器類などの災害廃棄物を分別して、受け入れております。

来場台数につきましては、水処理センターで1878台、鏡支所の東側駐車場では2556台、合わせまして4434台の受け入れを行っております。

これらの委託料1億190万7000円の内訳といたしましては、災害廃棄物の処理に係る経費といたしまして、まず、水処理センターや鏡支所の東側駐車場仮置き場の災害廃棄物の受け入れ業務及び災害廃棄物の処分業務委託、9887万2000円、それと、鏡支所東側駐車場の復旧整地業務委託といたしまして303万5000円を計上いたしております。

以上、議案第77号・専決処分の報告及びその承認についての平成28年度八代市一般会計補正予算・第1号におきまして、市民環境部が

お願いしております内容についての御説明いたします。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長（福嶋安徳君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑はありませんか。

○委員（野崎伸也君） 衛生費のごみ処理施設運営事業、清掃センターの件なんですけど、5515万9000円の計上だったのですかね、というところなんですけど、これをですよ、これは何日停止だったのですかね。日数的なところ、ちょっと言われたかな、ごめんなさい、済みません。

○廃棄物対策課副主幹兼施設管理係長（稲本健一君） 御質問なんですけども、稼働停止をした期間なんですけど、9.5日で、内訳としまして、4月14日9時26分に震度5弱、1回目の余震、このときに大体0.5日ぐらい、半日ぐらい稼働停止にしたと。それと、4月16日1時25分から震度6弱、2回目なんですけど、こちらのほうで、大体1.5日停止をしております。それと、4月の19日に震度5弱と、それと、8時に5弱が2回、3回、4回来まして、そのときに稼働停止を3.5日しております。それと、5月31日なんですけれども、煙突の調査、それと炉の基礎の補強工事をすることによって、電気の配線がありましたので、それで、調査に4日ほどかかって、内訳としましては、トータルで9.5日ということで停止をしております。

以上です。

○委員（野崎伸也君） ありがとうございます。

燃やせない分のやつがですね、大牟田のRDFのほうに持っていつているという話なんですけど、この単価については、通常どおりの単価で受け入れはしてもらったとですか。

○廃棄物対策課副主幹兼施設管理係長（稲本健

一君) 単価のほうなんですけれども、道路の麻痺、道路が渋滞したりとかしてましたので、処分を、通常であれば2往復できるところが1往復というところにあったものですから、その分で、少し処分の費用はかかります。

○委員(野崎伸也君) 通常、済みません、幾らだったですか、トン当たりが。これは何トン出して、これだけという話なんですか。

○廃棄物対策課副主幹兼施設管理係長(稲本健一君) 2カ所のほうに運んでおまして、大牟田・荒尾RDFというところなんですけども、そちらのほう処分代が、通常であれば3万6000円です。それで、被災後も同じ、同額の3万6000円になっております。

ただ、その運搬代、先ほど説明させていただきました福岡産業、福岡産業の分なんですけども、大体7000円弱ぐらいでの運搬費になっているんですけども、それが消費税込みの7560円というところで、少し金額のほうが上がっております。

それと、あともう1社、ジェムカというところに運んでおります。RDFでは、どうしても運搬の時間、それとあと車両の確保ができなかったもんですから、もう1社追加しまして、ジェムカのほうに、これは運搬代になるんですけども、4万3740円というところで見積りをとりました。被災前のほうは、こちらのほうは通常は契約しておりませんので、比較は、済みません、できません。ただ、RDFとジェムカの比較をしましたら、180円ほどジェムカのほうが高いと、運搬費も含めて比較をすれば、180円ぐらいが高いんですけども、運送のほうは、ジェムカのほうは、1回山口のほうに行っております、その後最終処分場が大分ということになっております。どうしても、ほかに運べるところがなくて、ジェムカというところになりました。

以上です。

○委員(野崎伸也君) 荒尾のRDFのほうは、いつもお世話になっている部分ですよ。そこで、全て受け入れがしてもらえなかったという話、やむを得なく、このジェムカという、初めて聞いたんですけど、そこへ持っていったという話なんです。持っていくようお願いをしたという話。

○廃棄物対策課副主幹兼施設管理係長(稲本健一君) そのとおりでございます。

どうしても、1日当たりのトン数なんですけども、地震前では80トンぐらいごみが入ってきてました。ただ、災害後は91トンと、10トン近く増加しました。それで、車両を確保するために、運搬が、通常であれば6台で、大体1台あたり7トンというところになるものですから、最大、ジェムカも入れたところで50トンしか、済みません、運ぶことができません。あと残り40トンとかは、もう積み残しになります。ですから、どうしてもそのままピット内もかなり場内があふれたものですから、ですから、どうしても搬出するしかなかったんです。それか、もう一つ、場外に野積みするか。ただ、そのときに野積みするとなると、悪臭とか虫とか鳥が寄ってきたりとかするもんですから、どうしても場内もですけど、場外にも置くことができないというところで、場外搬出を検討しました。

それと、また、そのほかに、ジェムカ以外にほかはないかというところで、県のほうにも御相談しまして、ただ、道路事情が、北部のほうはかなりやられてたものですから、宮崎、鹿児島とかないかということも、県のほうに御相談しました。ただ、どうしても難しいと、入れてもらうのが。ただ、今後かなり、今回9.5日間でしたのでよかったんですけど、まだ続くようであれば、県のほうから鹿児島、宮崎のほうに要請をしたいというところでもいただいたんですけども、9.5日だったので、一応ジェム

カのほうで、場内ので、どうにか焼却しました。

以上です。

○委員（野崎伸也君） はい、わかりました。

○委員長（福嶋安徳君） よかですか。ありませんか。

○委員（増田一喜君） 災害の復旧を、一応終了したというようなふうにはお聞きしているんですけども、地域住民の方からの話では、やっと落ちついたからちゅう、落ちついたちゅうことでもないんでしょうけども、搬出作業をしようかとしたら、業者さんがいないと。業者さんに委託したくてもいないと。だから、業者さんが帰ってくるまで待たないけんということで、結構時間がかかっているみたいで、もう一回補正を組んででもやるという計画はないんですか。やっぱりしてやらないと、自分でできないという人たちは大変じゃなかろうかなというふうに思うんですけども、そこらあたり考えられんでしょうか。

○市民環境部長（堀 泰彦君） 今の内容で、御相談も何回か受けておるわけでございますが、先ほどの報告の中でしましたように、説明の中で申し上げましたように、7日間で4424台の災害廃棄物処理を行ったというところでございますので、一応今回の熊本地震による瓦れきについては、これをもちまして終了と考えております。

御自宅にあられるというところにつきましては、専門の処分業者がおりますので、一応、そういうところの紹介等は、廃棄物対策課のほうでできようかと考えておりますので、御連絡いただければ、業者の紹介とかいう方法でお願いできればと考えているところでございます。

○委員長（福嶋安徳君） いいですか。

ほかにありませんか。

○委員（野崎伸也君） 済みません、先ほどの清掃センターの関係ですけど、煙突調査のやつ

なんです、結果的などころは、どがんふうな状況だったですかね。あと、今後の補修とかの関係の工事とかのあれが入ってくるのかどうかというのが、ちょっとわからないんですが。

○廃棄物対策課副主幹兼施設管理係長（稲本健一君） 御質問の煙突の件なんですけれども、煙突のほうは、まず、地震でですね、コンクリートできているんですけども、そのコンクリートの破片が落下しておりました。それと、中に、煙突が二重構造になってまして、真ん中に鉄管が入っています。その外にコンクリートで巻いてある。そして、中は空洞になっています。そちらの中に耐火材が巻いてあるんですけども、その耐火材がかなり下に崩落をしております、かなり危ないんじゃないかということで、場内のほうの話になりまして、煙突の調査を依頼したんですけど、なかなか業者さんの手が、調査の日程がとれなかったのと、焼却炉を、どうしても停止をしないと、2日以上停止をしないと調査ができませんでした。焼却炉の停止に合わせてしたんですけども、6月の3日に調査を、この間終わりました。調査内容なんですけど、煙突の傾きと煙道のところですね、灰が堆積してないか、煙が出ないものですか、堆積がしてないかを、ふさがっていないかを調査しました。

調査の結果なんですけれども、大丈夫というところで、結果が出たものですから、今後補正をする予定では、今のところありません。

以上です。

○委員（野崎伸也君） わかりました。

○委員長（福嶋安徳君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（福嶋安徳君） ないようです。以上で質疑を終了します。

それでは、以上で、歳出の第4款・衛生費、及び第10款・災害復旧費中、市民環境部所管

分についてを終了いたします。

小会します。

(午前11時42分 小会)

(午前11時44分 本会)

○委員長(福嶋安徳君) それでは、本会に戻します。

引き続き、歳出の第7款・土木費、及び第10款・災害復旧費中、建設部所管分について説明願います。

○建設部長(関 賢一君) 議案第77号・専決処分¹の報告及び承認につきましても、先ほどに引き続きまして、植野総括審議員兼次長並びに関係課長より説明させますので、よろしくお願いたします。

○建設部総括審議員兼次長(植野幹博君) 建設部、植野でございます。引き続き、御説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

○委員長(福嶋安徳君) どうぞ。

○建設部総括審議員兼次長(植野幹博君) それでは、まず、議案書をお願いいたします。議案書の53ページをお願いいたします。

この議案第77号は、専決処分¹の報告及び承認についてでございます。

次の54ページをお願いいたします。5月の13日に、平成28年度八代市一般会計補正予算の第1号につきまして、専決処分¹を行いましたので、報告をいたしまして、承認を求めますのでございます。建設部所管の本委員会所管につきまして、御説明させていただきます。

この補正は、今回の熊本地震で被災しました市管理の公共土木施設の災害復旧などに要する経費を増額するもので、早期に執行する必要がありますことから、専決処分¹を行ったものでございます。

予算書の中身の前に、まず、災害の概要について御説明をいたします。別冊の資料をごらんいただきたいと思っております。この縦で、建設環境

委員会資料と書いて、平成28年度5月補正予算(5月13日専決分)と書いてあるものをお願いします。

まず、表紙をめくっていただきますと、被災状況の一覧表をつけております。上のほうが公共土木施設、下のほうが公営住宅の表です。両方合わせまして、合計が一番下に書いてありますけれども、被災件数で185件、被害額が約3億円でございます。

上から順番に御説明いたします。まず、河川です。河川は2件で600万円の被害です。中陣川と新川の護岸の崩壊の被害です。状況は、後ほど図面等で御説明いたします。

その次が道路です。道路は100件で2億3495万3000円です。右側に、管内ごとの内訳を書いております。本庁管内から坂本、鏡、東陽、泉管内というふうに書いております。それぞれの件数と金額を書いてまして、およその内容は、舗装のひび割れとか、道路の沈下、擁壁の損傷、のり面の崩壊とか落石、そのような被害が、市内の各地で発生をいたしました。

次が橋梁です。橋梁は1件で750万円です。これは前川橋の点検用の踊り場が破損しているものです。

その次が公園です。公園は24件で3450万円です。右側に公園名を書いてありますけれども、公園の中の園路の路肩の沈下とか、公園の地割れ、あるいはグラウンドの液状化や導水管の破損などがございます。

その次、下水道は11件で1425万3000円です。これは水処理センター内の地盤沈下や漏水などの被害です。

その下の公営住宅関係です。市営住宅47件で1139万3000円の被害です。内容は、住宅の壁の破損とかひび割れ、あるいは配管の破損、ドアや押入れの破損、天井ひび割れなどでございます。

次に、写真等で、内容を御説明いたします。

1 ページめくっていただきますと、河川の状況です。地図に、小さい青丸ですけども、2カ所丸印をつけてます。

右側に写真をつけてます。上が新川、下が中陣川ですけども、このように石積みの護岸が崩れております。河川の状況です。

次のページをめくっていただきますと、道路と橋梁です。この地図の中に丸印で箇所を示しております。右下に凡例がありますけども、赤の丸が舗装のクラックなどです。青丸が橋梁の損傷です。橋梁は橋梁本体と、それ以外に橋梁前後の舗装の損傷もあわせて、この橋梁という印をつけております。下の緑の丸と緑の線とありますけど、丸は1カ所、線は、ちょっと何か所かあった区間を線で記してありますけども、これは土砂の崩落とか落石などの箇所でございます。

写真をつけてますけども、代表的な被害の状況です。上のほうに3つついてます写真は、一番左が土砂の崩壊の状況、真ん中は落石、土砂崩落、右側が落石の状況です。真ん中の欄が、道路の舗装に亀裂が入っているような状況が左の2枚、右側は落石の様子です。一番下が、左端が橋梁の、ちょっとわかりにくいですけど、右側が橋梁の踊り場が損傷した状況です。その横は、橋梁前後に段差ができています。そのもう一つ右も、橋梁前後の舗装の被害の状況です。このように、管内全域でいろいろ赤丸、緑、青でいたしております。

この中で、先ほど、一般会計第2号補正の中で、泉の舗装が傷んでいる話をいただきました。赤丸でつけているところが、舗装の箇所です。あわせて、一番右側の緑が1つ丸があります。これは五家荘線ですけど、ここは落石が中心ですけど、舗装も傷んでまして、緑ですけど、落石対策とひび割れと、両方の箇所でございます。

次のページ、めくっていただきますと、公園の状況です。地図の中に、青い小さい丸ですけど、被災箇所を書いております。

写真が被害の状況ですけども、右上の写真が、公園のグラウンドがひび割れている状況です。左上は、白っぽいところがコンクリートの舗装です。緑側が横の路肩のところなんです。その境目にひびが入っている様子です。その下は落石です。家の瓦があって、その奥のほうに白い物が見えます。これは石が落ちている状況です。一番下の写真は、導水管の継ぎ目から水が漏れているところです。そういった導水管の様子ですけども、こういう被害です。

次のページは、下水道の被害の状況です。これは水処理センターの敷地内での被害です。一番左側の写真が、建物の横が地盤沈下している様子です。真ん中は、コンクリートにひびが入っている状況です。右の写真は、ちょっとわかりにくいんですけども、漏水の状況です。3分1ぐらい上のほうに、左から右に色が変わっているところがありますけど、そこが漏水の状況です。

一番最後のページは、市営住宅の被害の位置と様子です。地図の中に四角で囲んで、管内ごとの被災の件数を記載をいたしております。

代表的な被害の写真をつけてますけども、右側の上の写真は、給水タンクの配管が破損している状況です。丸で囲んだところが破損して外れている状況です。下は、真ん中付近、縦のブロックにひびが入っています。右側は天井のひびの様子です。

このように、市内各地で多数の被害が発生をいたしました。

それでは、補正予算の内容を御説明いたしますので、また、議案書に戻っていただきまして、議案書の55ページからお願いいたします。55からが補正予算書第1号です。その中の59ページをお願いいたします。

歳入歳出予算補正のうちの歳出の一覧表でございます。真ん中付近の款の7・土木費、これを、補正額2357万7000円増額しまして、64億8050万4000円といたしております。これは、項の5の都市計画費を増額するものでございます。

また、その下の段の款の10・災害復旧費のうちの項の2・公共土木施設災害復旧費を、補正額で2億9434万6000円増額しまして、2億9434万7000円といたしております。内訳は、70ページで御説明いたします。

70ページの真ん中の表の款の7・土木費、項5・都市計画費のうちの、まず、目の1・都市計画総務費に、補正額で2289万6000円を加えまして、17億5412万1000円としています。これは、右のほうの節の28で繰出金2289万6000円とあります。これは、説明の欄に書いてますけども、企業会計繰出金事業として、下水道事業会計へ繰り出すものでございます。熊本地震で被災しました水処理センター施設の災害復旧や、本庁の別館も被災して、閉鎖をしております。それに伴いまして、下水道部署が仮の事務所に移転して業務を続けるために必要な経費でございます。詳しくは、後ほど、議案の80号で、下水道事業会計予算の専決処分報告で御説明いたします。

次に、目の5の区画整理費に、補正額で68万1000円を加えて、5億6588万2000円としています。内容は、説明欄にありますとおり、被災した本庁舎の閉鎖に伴いまして、都市整備課が、八千把の区画整理事務所へ移転して業務を続けるために必要な経費でございます。

次に、議案の72ページをお願いいたします。議案書の72ページです。

款10の災害復旧費の中で、建設部関係の補正でございます。項の2・公共土木施設災害復

旧費の内訳としまして、まず、目の1・道路橋梁施設災害復旧費に2億4245万3000円を増額補正いたしております。内訳は、節で書いてます。まず、節の11・需用費、これは落石や土砂の撤去とか小規模な修繕などの費用を事業費で充てております。6589万円です。次、節の13・委託料、これは復旧工事に必要な測量設計費用などございます。3792万3000円です。節の15・工事請負費、これは復旧工事の費用です。1億3600万。節の16の原材料費、これはアスファルトの合材とかカラーコーンとか、そういう材料、資材等の費用で264万円でございます。

事業内容は、説明欄にありますとおり、地震で被災した市道80路線の災害復旧でございます。

次の、その下の目の2・河川施設災害復旧費、補正額600万円でございます。これは、説明欄の新川など二つの河川の災害復旧です。

次に、その下の段の目3・都市計画施設災害復旧費は3450万円の増額補正で、説明欄にありますとおり、大島公園など22公園の災害復旧を行うものでございます。

一番下の段の目の4・住宅施設災害復旧費は1139万3000円の増額補正です。井揚町団地等16団地の災害復旧でございます。

以上、公共土木施設災害復旧費は、目の1から4の合計で、補正額で2億9434万6000円の増額でございます。

以上で、専決処分を行いました、一般会計補正予算・第1号の建設部所管分の本委員会付託分についての御説明を終わります。御審議をよろしくお願いいたします。

○委員長（福嶋安徳君） それでは、以上について質疑を行います。

○委員（野崎伸也君） 本庁舎など閉鎖に伴う移転事業ということで、都市整備課は八千把区画整理事務所2階へ移設、整備する経費という

ことで681万円計上されております。その中でですね、修繕料ということで、事務所外階段雨よけ修理などというようなところで、39万5000円というのがありますけど、これは事務所の階段が、これは地震でやられたんですか。地震じゃなくて、今までやられてたのを、移るのに伴って使うので、こちらで修理するという話なんですか、どっち。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） これはですね、事務所の2階の会議室に入りますけど、会議室に上がるところが、雨が降ると、横から水が入り込んできますので、地震の被害じゃなくて、濡れないで出入りできるようにということで、修理をするものでございます。

あわせて、2階が雨漏りもありますので、雨漏り修理もあわせて計上いたしております。

地震ではないです。

○委員（野崎伸也君） 入居するときに必要と、1階は区画整理で使いよなっけん、邪魔せんごと、そっちから入るといふ話で必要なんですよというふうな計上なんだろうというふうなことで理解しました。

○委員長（福岡安徳君） ほかにありませんか。

○委員（野崎伸也君） もういっちょよかですか、済みません、大島公園のやつなんですけど、説明されたかとは思いますが、1000万ほどかかるということですかね。ちょっと内容的な話はされましたか、具体的に。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） 大島公園の内容につきましてはですね、先ほど、ちょっと縦の資料、図面写真の中の後ろから3枚目で、公園の写真等をつけております。これの左上が大島公園の写真なんですけども、地割れの様子をつけています。これがですね、地震によりまして、数カ所にひび割れが入ってまいりました。その1カ所が、この道路の舗装の路肩のところかひび割れている。このほかにです

ね、それを上ったところに公園の平場がありますけど、そこへのひび割れ等がございます。あわせて、背後が、少し山が高くなってまして、そこで落石があります。そういう対策ということで、大島公園は復旧経費が必要ということで計上しております。

○委員（野崎伸也君） わかりました。

もう1点です。井揚団地の関係ですよ。この補修というのが、外のブロック塀とかであればですね、住んでいただきながらというのがあつともしれんですけど、中の壁、天井ですよ。クラックの修理ばしていくという中で、住まわれている方、どぎゃんふうな対応をされて、修理していくのかというのは。

○建築住宅課長（宮端晋也君） 建築住宅課、宮端でございます。

今回の被災は、先ほどお尋ねの天井の部分の修理ですとかは、住みかえをいただいて、修理をしなければならぬというほどまでの規模ではございませんでしたので、その部分を修理する際には、ちょっと御迷惑をおかけするかもしれませんが、お住まいいただいたままで修理は可能という程度だと判断しています。

○委員（野崎伸也君） 今から、その御案内、もうされてるんですかね。わかんないんですけど、今からされていくのか、どうかわからんですけど、御理解いただきながらですね、対応していただきたいというふうに思います。

あと、もう一つなんですけど、井揚の団地ちゅうとはかなり古かつじゃなからうというようなイメージを持つとうとですけども、耐用年数とかというのはあるんですか。今後、住んどらすけんですね、直さんといかんというのはわかっとうとですけど、1000万ほどですね、またかけてというのが、費用対効果的にどうなのかなというのがありますし、耐用年数とかちゅうとはどれぐらいの部分を見込んでおられるのか。

○建築住宅課長（宮端晋也君） 済みません、耐用年数の数字を覚えていないんですが、耐用年数という言葉はですね、その年限が来たら使えないとかっていうことではなくてですね、補助の返還上の年限だと思んですが、それが45年ぐらいだったか、済みません、正確ではないんですが、そういう中で、井揚団地につきましては、住宅の長寿命化計画の中では、建てかえではなくて、維持管理をしていく団地という位置づけでしているところです。

以上です。

○委員（野崎伸也君） はい、わかりました。

○委員長（福嶋安徳君） ほかにありませんか。

○委員（古嶋津義君） 企業会計の繰り出し、下水についてですが、これについては、空きビルちゅうとは、あそこのほか弁の裏のビルですかね。

それとですたい、もう一つですが、これについては、国から災害復旧の特別交付金か何か、何割か出っつとでしょう。パーセンテージを教えてください。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） 今の下水道会計の繰り出しのことですけれども、済みません、詳細はですね、後ほどの下水道の中の補正の中で御説明する予定ですけれども、今、係がおりますので、今の場でよろしければ。

○委員長（福嶋安徳君） 下水の部分になれば、後でしましょうか。ようございますか。

○委員（古嶋津義君） はい。

○委員長（福嶋安徳君） ほかに。

○委員（百田 隆君） さっき大島公園のことが出ましたですね。下に、3軒ばかり、強制的になさしておるわけです。その上に、ちょっと娛樂みたいな感じですね。現場を見ましたんですけど。あそこを、工事としてはいつごろから、もう始めてあつとですかね。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） 大

島公園は、先ほど説明しましたけれど、ちょっと漏れてました。今ですね、調査をやっております。調査というか、観測をですね。先ほどひびが割れていると説明しましたが、そこをですね、地震でひび割れて、今、梅雨で雨が降ります。そういう中で、一応調査をですね、ボーリング調査をしまして、その後、どのように動いていくかというような観測を、今やっております。

今の状況ですとですね、地震で、最初ひび割れた後は、それがどんどん進行していくような状況には、まだ、今のところはなっておりません。それを一梅雨観測をしまして、その結果次第でですね、どのような対策が必要なのか、どの程度必要なかというのを検討することになります。

今やっていますのはですね、その観測をあわせて、応急対策といいますか、表層崩壊は、急勾配なものですから、なっていますので、家に大きな被害がいかないように、下に大きな土のうをですね、積んで、応急対策をしております。当面はそれで安全は確保できます。

あとは、それ以外の大きな動きがあるかないかを観測をやってまして、その調査の結果次第で、工法を決定することになります。そういう前提で、一応想定で調査費と工事費予測で1000万は計上しております。

○委員（百田 隆君） 大体どのくらい調査期間、かかるみたいですか。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） 観測を梅雨の間行う予定です。あと、7月下旬が、大体梅雨ですので、それぐらいまで観測して、その結果で対策の内容について検討したいと思っております。

○委員（百田 隆君） じゃあ、まあ、しばらくかかるということですね。そういうふうには理解してよかですか。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） 梅

雨が明けて、出た結果次第で検討を数カ月、一、二カ月ぐらいかかるのかなと思っております。

○委員（百田 隆君） わかりました。

○委員（中山諭扶哉君） 道路、橋梁のですね、災害復旧の資料なんですけど、舗装のクラックが入った資料がありますけど、いずれも川沿いの道路なんですね。堤防の機能的には補修で大丈夫なんですか。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） 舗装のひびが入っているところで、川沿いのところ、堤防と一体的になっているところなんですけども、そこにつきましてもですね、クラックの状況によりましてですね、どの深さまで入っているのかというのを調査をしております。深いところまで入っているものはですね、そのひびが入っているところまでは、土砂を一回撤去してですね、そして、きれいに締め固めていって、下のほうの堤防のところからずっと順番に上がって行って、最後に舗装を仕上げるような復旧をいたします。ひび割れの程度によって、必要などころまで復旧をするようにしたいと思えます。

○委員（中山諭扶哉君） 期間的には梅雨まで、もう梅雨に入りましたけど、どのくらいぐらいの、今計画なんですか。

○建設部総括審議員兼次長（植野幹博君） 場所によってですけども、まず、当面ひどくならないようにということで、ひび割れを充填しているようなところはありますけども、それ以外ではですね、今のところでは、ちょっと梅雨まで応急対策が必要などころ、ひどいところは応急でやってますけど、それ以外は、現在までに完了、対応がですね、してますのが、今、道路の話でしたけども、道路でいきますと、100件のうちに二十数件ぐらい対応が終わってます。今、施工中が二十数件ございます。今後がですね、国の災害査定を、今受けている途中で

ございます。災害査定を受けているところにつきましましては、完了予定を、遅くとも年内、12月までには工事を完了したいというふうに予定をいたしております。

○委員（中山諭扶哉君） 堤防なので、ちょっと心配なところがあったもんですから、ぜひ早目に堤防の近くでありますので、よろしく願います。

○委員長（福嶋安徳君） ほかに。

○委員（野崎伸也君） 済みません、もう1回、井揚団地の話なんですけど、非常に古い施設が残っているというふうに、市営住宅の部分ですね、思うんですよ。多分、平屋の長屋だったかなというようなイメージがあつとですが、地震でですよ、やっぱり安全な住宅をですね、提供していくというようなものがあるとは思いますが、これは、耐震の診断とか、多分せんでいいとか、そういった基準があつとかもしれないんですけど、大体どれぐらいの地震に対応できるんですか。今後、長寿命化計画とかつていうところでやっていくという話なんですけど、どれぐらいの規模まで持たせられるような団地にしていこうという計画を持っておられるんですか。じゃないと、市民の方に住んでいいですよと、お金もらって提供しているのに、そういう地震で潰れましたとかつていう話じゃあですね、話にならんもんですから、そこら辺のところ、どぎゃんふうな担保ば持ってやっておられるのかというのを、ちょっとお聞きしたいんですけど。

○建築住宅課長（宮端晋也君） まず、団地のですね、耐震関係ですけども、耐震診断自体は行ってないんですけど、長寿命化計画を策定する中でですね、正式な耐震診断の前に、簡易な耐震のチェックするものがございまして、そのチェックの中で、オーケーというものが出てきましたので、診断までは行ってないという状態

でございます。

これが、震度幾つまでもつとかというのはですね、なかなか数字等対比してないものですから、お答えできないところなんです、今の建築の構造基準が、57年に定められた基準だということで、耐震補強すれば、そのレベルまで持っていくというものなんです、それに近い、また同等のレベルの耐震力はあるんじゃないかというふうには思っております。

それから、長寿命化で何年もたせるかという御質問でしたが、鉄筋コンクリートづくりの場合に、それまで、先ほど耐用年数というお話出ましたけども、そうじゃなくて、50年もたせようというような目標だったものを70年もたせようというような指針で、長寿命化を活用しようというのが大きな目標です。

以上でございます。

○委員（野崎伸也君） 済みません、意見になつとですけど、長寿命化計画とかっていうのも、多分地震前にですね、いろいろ考えられて、いろんな部分で、どの施設ばこのようにしていこうとかっていうのをつくってこられたというふうに思うとつとですけども、今回、この地震ば受けてですね、やっぱ、地震でどれだけのものに耐えられるかと、どぎゃんふうな建物ば、じゃあ、提供していくかというところまでですね、やっぱ考えてやっていかんとかいぬとかなというふうなところになってきたと思うとですよ、やっぱ。市民の方に貸しとつてから、入つとつてもらつとつて、潰れましたじゃ、そら、どぎゃんもこぎゃんもいかんというふうに思いますんで、そういう建物じゃですね、やっぱ、だめだというふうに思いますんで、長寿命化計画ば策定されつとつと思うとですけども、その中にプラスして、今後どういったところまで耐えられるのかかいうところですよ、補強のやっっていく場面では、やっぱ考えて進めていってほしいなあというふうに思

いますので、御検討のほうば、部長のほうにもよろしくお申しときます。

○建設部長（間 賢一君） 今回のですね、熊本地震に関しましては、かなり想定外のところが多かったもんですから、議員がおっしゃいますとおり、今後はですね、さらに、今回の地震をですね、参考にですね、市営住宅の考え方も少しはちょっと見直していかなければいけないのかなというふうには考えております。どうもありがとうございます。

○委員長（福嶋安徳君） ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（福嶋安徳君） ないようです。

以上で、質疑を終了します。（「委員長、意見は言ってよかですか」と呼ぶ者あり）

今から、意見がありましたら、お願いします。

○委員（松永純一君） 先ほど私が言いました、舗装の整備の件ですけど、多分、道路の中で、泉管内22件、1250万ですから、私が聞きましたのは入ってないだろうと思います。ですから、これは建設事務所とですね、打ち合わせて、再度検討していただきたいというふうに思いますので、意見として申し上げておきます。

以上です。

○委員長（福嶋安徳君） ほかに、意見はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（福嶋安徳君） ないようです。

これより採決いたします。

議案第77号・平成28年度八代市一般会計補正予算・第1号中、当委員会関係分に係る専決処分の報告及びその承認について、承認するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（福嶋安徳君） 挙手全員と認め、本案は承認されました。（「ありがとうございます

した」と呼ぶ者あり)

小会します。

(午後0時18分 小会)

(午後0時19分 本会)

◎議案第80号・専決処分の報告及びその承認
について(平成28年度八代市下水道事業会計
補正予算・第1号)

○委員長(福嶋安徳君) それでは、本会に戻
します。

次に、議案第80号・平成28年度八代市下
水道事業会計補正予算・第1号に係る専決処分
の報告及びその承認についてを議題とし、説明
を求めます。

○下水道建設課長(福田新士君) 下水道建設
の福田でございます。隣が、下水道総務課の古
田でございます。座りまして、説明させていた
だきます。

議案書の113ページをお願いいたします。

議案第80号につきましては、平成28年5
月13日に専決処分を行いました、平成28年
度八代市下水道事業会計補正予算・第1号につ
いて、報告とその承認を求めるものでございま
す。資料は、議案書115ページからの補正予
算書でございます。

中身の説明に入ります前に、まず、概要につ
きまして御説明させていただきます。

今回の補正は、本年4月16日未明に発生し
たマグニチュード7.3を本震とする平成28
年熊本地震により、新港町にございます水処理
センターの施設及び設備等の一部に被害を受け
たことによります災害復旧費、並びに本庁舎別
館が使用不能となり、下水道総務課及び下水道
建設課の2課につきましては、現在、水処理セ
ンターにおいて執務を行っておりますが、下水
道利用の皆さまに大変な御不便と御迷惑をおか
けている状況にありますことから、本庁舎付
近に新庁舎完成までの仮事務所を賃借し、そち

らへ再移転するための経費につきまして、専決
処分を行ったものでございます。

それでは、議案書の117ページをお開きく
ださい。まず、第2条で、収益的収入及び支出
の補正予定額を定めております。

収入では、第1款・下水道事業収益の第2項
・営業外収益で1994万4000円を追加
し、補正後の計を34億5549万円としてお
ります。

次に、支出では、第1款・下水道事業費用、
第1項・営業費用で収入と同額の1994万4
000円を追加し、補正後の計を30億894
8万2000円としております。なお、補正額
の内容につきましては、後ほど御説明いたしま
す。

続きまして、118ページをお願いいたしま
す。第3条において、資本的収入及び支出の補
正予定額を定めております。

収入では、第1款・資本的収入、第2項・補
助金で295万2000円を追加し、補正後の
計を21億450万2000円としておりま
す。

次に、支出では、第1款・資本的支出、第1
項・建設改良費で、収入と同額の295万20
00円を追加し、補正後の計を30億469万
2000円としております。

それでは、補正予算の中身について御説明い
たします。

ページが飛びますが、129ページをお開き
下さい。まず、収益的収入及び支出のうち、収
入について御説明いたします。

款1・下水道事業収益、項2・営業外収益、
目5・他会計補助金で1994万4000円を
追加しまして、補正後の計を1994万400
0円としております。内容は、災害関係経費に
係る一般会計補助金でございます。

次に、支出では、款1・下水道事業費用、項
1・営業費用、目3・水処理センター費で14

25万3000円を追加し、補正後の計を3億7978万3000円としております。内容としましては、熊本地震に伴う災害復旧費で、水処理センター敷地境界フェンスや機械棟排水設備復旧などの修繕費でございます。

目5・総係費では569万1000円を追加し、補正後の計を1億7385万6000円としております。内訳の主なもの、仮事務所における電気・ガスなどの光熱水費が115万2000円、引っ越しなどに要する手数料が112万4000円、及び仮事務所の賃借料216万円などでございます。

続きまして、130ページをお願いします。資本的収入及び支出のうち、まず、収入につきましては、款1・資本的収入、項2・補助金、目2・他会計補助金で295万2000円を追加しまして、補正後の計を3億4425万9000円としております。内容は、災害関連経費に伴う一般会計からの基準外繰入金でございます。

次に、支出ですが、款1・資本的支出、項1・建設改良費、目5・営業設備費で295万2000円を追加し、補正後の計を575万2000円としております。内容は、仮事務所における空調設備及び電話交換機の設備工事費でございます。

以上が、補正予算の内容となりますが、125ページの予定キャッシュ・フロー計算書、126ページから128ページの予定貸借対照表は、今回の補正予算額に合わせて修正を行っております。説明につきましては、省略させていただきます。

以上が、予算の説明でございますが、施設の被害の状況につきましては、別紙資料で説明いたします。

左上の平成28年4月14日、16日、熊本地震被災箇所（下水道建設課）というのをご覧ください。ここに、右上段に、——水処理セ

ンターの位置でございますが、新港町にあります、県南運動公園の隣に位置します。その詳細図が、右上に示してあります。1、2が、今線で、3が2つあって、4、5、6、6カ所につきまして、今回緊急で修繕を行うものです。

①につきましては、下に写真がございます。機械棟の横に地盤沈下が発生しております。

3の上段、フェンス倒壊、これは西側の境界線にありますフェンスが倒壊してしまいましたので、復旧するものです。

それと、下段の③ですけど、管理棟前液状化及び側溝破損、これは玄関の入り口の液状化等によりまして、被災した部分の復旧です。

4番につきましては、下に写真があります。管路躯体継ぎ目破損、継ぎ目がちょっと離れておりますが、一旦これが離れた状態になったのかと思いますけど、水が吹き出しまして、今は、この亀裂が入った状態で落ちついております。

それと、⑤も写真がございます。汚泥処理管路漏水、ここも目地が一旦、水を吹き出すような状況になっておりましたので、補修するものです。

6番、管理棟のクラック、これは建屋の中のクラックが入っておりますので、それを補修するものです。

以上で、御報告いたします。御審議のほどよろしく願いいたします。

○委員長（福嶋安徳君） それでは、以上の部分について質疑を行います。

○委員（古嶋津義君） さっきちょっと聞きましたが、仮設庁舎の場所、後については、もう直接総務省に聞きます。つき合いが多いですから。仮設の庁舎だけ聞きます。

○下水道総務課長（古田洋二君） 今回予定しております移転先ですが、現市役所の本庁舎、あの一帯がありますけれども、あの東北側といえますか、交差点がありますですね。あそこが

松高小学校がありまして、「(代陽小学校)と呼ぶ者あり)失礼しました。代陽小学校の敷地の道向かいがビルがありますけれども、その2階を借ろうというような予定でおります。わかりでしょうか。

○委員(古嶋津義君) 昔、有佐あたりに社会党の代議士さんがおらした、あの息子さんのしよらした学習塾のあるところ。

○下水道総務課長(古田洋二君) そうです。

○委員(古嶋津義君) あの辺な。はい、わかりました。

○委員(野崎伸也君) 同じ項目ですけど、済みません、わからんけん、教えてもらいたいですけど、その事務所の賃借料216万で、年間216万ということだろうと思うんですけども、あと、あわせて空調については、借り主のほうかせなんていうような、いろんな条件があるんだろうとは思いますが、そういう条件で、今回お借りするというふうな話なんですか。それは何年借りるんですか。

○下水道総務課経営係長(松下健二君) 下水道総務課の松下でございます。

事務所の賃借料につきましては、入居します課が、下水道のほうから総務課と建設課と、あと水道局のほうでも入居いたします。3課分で、合わせて月32万4000円の、今回専決処分しましたのは、2課分の3分の2の額、月21万6000円の10カ月分を計上いたしております。

空調につきましては、大家さん、仲介不動産屋とお話しする中で、家賃のほうを下げるんで、その分、冷房のほうはこっちで設置してということでお話し合いさせていただきました関係上、こちらで計上させていただいております。

以上でございます。

○委員(野崎伸也君) 済みません、今、3課あわせて入られますよというのが、その人員が

何人なのか、事務所は何平米あるとですか。

○下水道総務課経営係長(松下健二君) 事務所の面積が約100坪、330平米ですね。

入る人員が、下水道総務課で職員19名と、あとシルバーの職員が6名程度ですので、合わせて25名。下水道建設課のほうで11名。水道局のほうで、済みません、ちょっと水道局の人数を詳細に把握してないんですが、20名前後いらっしゃると思いますので、合わせて50名程度ですかね。済みません。

○委員(野崎伸也君) はい、わかりました。

○委員長(福嶋安徳君) ほかにありませんか。

○委員(増田一喜君) 130のところですけど、先ほど説明があったんですけど、繰入金をして、一般会計補助金というふうに、補助金と明記してあるんですけど、繰入金をというふうな言われたけど、そこの違いはどうなっているんですか。

○下水道総務課経営係長(松下健二君) 下水道事業のほうで、企業会計のほうで運営させていただいております、一般会計からの繰入金につきましては、予算科目として、基準内の繰入金を一般会計からの負担金、基準外の繰入金のほうを一般会計からの補助金というふうに区別させて、計上させていただいている関係上、表現が一般会計補助金というふうになってます。

○委員(増田一喜君) わかりました。

○委員長(福嶋安徳君) いいですか。ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(福嶋安徳君) それでは、ないようです。以上で質疑を終了します。

意見がありましたら、お願いします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(福嶋安徳君) ないようです。これより採決いたします。

議案第80号・平成28年度八代市下水道事業会計補正予算・第1号に係る専決処分の報告及びその承認については、承認するに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者 挙手)

○委員長(福嶋安徳君) 挙手全員と認め、本案は承認されました。

それでは、午前中の審議はここまでとし、しばらく休憩します。

午後はどういたしましょうか。(「1時」と呼ぶ者あり) 1時半。(「1時だろう」と呼ぶ者あり) それでは、1時半にいたします。

(午後0時34分 休憩)

(午後1時30分 開議)

◎議案第82号・契約の締結について(八代市環境センターマテリアルリサイクル推進施設建築工事)

◎議案第83号・契約の締結について(八代市環境センターマテリアルリサイクル推進施設プラント設備工事)

◎議案第84号・契約の締結について(八代市環境センターマテリアルリサイクル推進施設建築電気設備工事)

○委員長(福嶋安徳君) それでは、皆さん、こんにちは。(「こんにちは」と呼ぶ者あり)

休憩前に引き続き、建設環境委員会を再開いたします。

議案第82号・八代市環境センターマテリアルリサイクル推進施設建築工事に係る契約の締結について、議案第83号・八代市環境センターマテリアルリサイクル推進施設プラント設備工事に係る契約の締結について、及び議案第84号・八代市環境センターマテリアルリサイクル推進施設建築電気設備工事に係る契約の締結についての3件については、関連がありますので、本3件を一括議題とし、採決については、個々に行いたいと思います。

それでは、本3件について、一括して説明を求めます。

○財務部長(岩本博文君) 皆様、こんにちは。(「こんにちは」と呼ぶ者あり) 財務部、岩本でございます。

本委員会に付託されました議案第82号から第84号までの契約の締結については、八代市環境センターマテリアルリサイクル推進施設に係るものでございます。

内容につきましては、工事関係は市民環境部の山口環境センター建設課長に、契約関係は財務部の山本契約検査課長に説明をいたさせます。よろしくお願いいたします。

○環境センター建設課長(山口敏朗君) こんにちは。(「こんにちは」と呼ぶ者あり) 環境センター建設課長、山口でございます。

議案第82号、83号、84号、マテリアルリサイクル推進施設整備に係る工事請負契約の締結について、御審議をよろしくお願いいたします。

私のほうからは、まず、工事概要及び施設概要について御説明いたします。座らせて説明させていただきます。

○委員長(福嶋安徳君) はい、どうぞ。

○環境センター建設課長(山口敏朗君) 資料のほうは、お手元のほうに、図面をつけました資料をお配りしておるかと思っております。そちらのほうで説明させていただきます。

それでは、資料に基づきまして、主な項目について御説明いたします。重複します内容につきましては、割愛させていただきますことを御了承ください。

それでは、表紙をめくっていただきまして、2ページ目、工事概要説明書をごらんください。2ページ目、まず、番号、平成28年度環セ工第1号・八代市環境センターマテリアルリサイクル推進施設建築工事になります。

工事の目的は、八代市内の家庭や事業所から

一般廃棄物として発生する資源ごみを受け入れ、破碎、選別、圧縮等の処理及び保管を行う施設を建設するための建築工事を行うものです。

施設概要は、延べ床面積6284.97平米。構造は、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造の混合造となっており、階数は3階建てになります。

工事内容は、建築工事一式になります。

続きまして、3ページ目をお開きください。番号、平成28年度環セ工第2号・八代市環境センターマテリアルリサイクル推進施設プラント設備工事になります。

工事目的、工事内容は、受け入れ供給設備一式、破碎設備一式、選別施設一式、集じん設備一式など、資源物を中間処理するためのプラント設備工事を行うものです。

4ページ目をお開きください。番号、平成28年度環セ工第3号・八代市環境センターマテリアルリサイクル推進施設建築電気設備工事になります。

工事目的、工事内容は、幹線動力設備一式、電灯設備一式、中央監視設備一式、太陽光発電設備一式などの建築附帯電気設備工事を行うものです。

それでは、続きまして、施設の概要について御説明いたしますので、5ページ目をお開きください。A4横の図面になります。

施設の配置図になります。工事をします部分は、赤い色の施設になります。今回の案件のマテリアルリサイクル推進施設になります。

6ページをお開きください。こちらは、コンベアピット機器配置平面図になります。破碎ごみ、プラスチック製容器包装物、缶類を処理ラインに流すための受け入れ口になり、床面よりも下の部分になります。

1ページめくっていただきまして、7ページをお開きください。1階の平面図になります。

図面の右側、施設の右側、紫色で色づけしている部分ですが、一般車専用の受け入れスペース、施設内の緑色の部分が資源物のストックヤードになり、オレンジ色の部分は圧縮梱包した資源物の保管ヤードになります。これらは、建築工事の所掌になります。

赤い色の設備が、中型ごみを高速回転破碎機で処理するライン、黄色の設備がプラスチック製容器包装を選別、圧縮するライン、それから、この黄色の部分はペットボトルも処理することができます。また、青色の設備は、缶類を選別圧縮する処理ラインになり、これらの処理ラインはプラント設備工事の所掌になります。

次のページをお開きください。2階の平面図になります。紫色の場所は、この施設で業務を行う作業員と収集作業員の休憩室になり、建築工事の所掌になります。

プラスチック製容器包装物や缶類の処理ラインは、黄色の部分、青色の部分になりますけれども、手選別作業からのベルトコンベヤーが配置されることになります。また、高速回転破碎機のほうは、2階部分になります。こちらはプラント設備工事の所掌になります。

続きまして、9ページ目をお開きください。3階の平面図になります。薄緑色の部分は見学通路になり、建築工事の所掌になります。

管理棟からエネルギー回収推進施設へつながっており、見学者は作業の様子を見おろして見学できる部分になります。紫色の部分は、中央制御室で、各処理ラインをモニターで監視する部屋になります。

続きまして、10ページ、次のページをごらんください。屋上の平面図になります。緑色の部分が太陽光発電設備を設置する場所になります。こちらは電気設備工事の所掌になります。

次のページ、11ページ、それから、その次のページ、12ページ、こちらは各処理ラインを横から見たときの施設の断面図になっており

ます。

ページをめくっていただきまして、13ページ目、これは各処理ラインを正面から見たときの施設の断面図になっております。

続きまして、14ページ目と15ページ目、こちらは、施設全体を東西南北から見たときの施設の立面図になっております。

続きまして、16ページ、17ページ、こちらにつきましては、各資源物を処理するラインのフロー図を載せているところでございます。

最後に、参考資料といたしまして、A3判の資料になりますけれども、環境センター建設工事のスケジュール表を添付しているところでございます。

色づけの部分は、これから行っていかなければならない部分、それから、グレーになってます部分が、今まで終わった部分ということになっております。

それから、お手元のほうに、別冊といたしまして、建設環境委員会資料といたしまして、分厚いやつを配らせていただいております。こちらになりますけれども、この資料につきましては、説明の時間がございませんので、割愛させていただきます。

全ての施設に関します実施設計が終わりました時点での平面図等を載せているところでございますので、一回ごらんいただきまして、次回所管事務調査等で、また御説明させていただきたいと思っております。

以上でございます。

○契約検査課長（山本洋治君） 契約検査課の山本でございます。座らせていただき、工事概要に引き続き、説明いたしますので、よろしくお願いたします。

○委員長（福嶋安徳君） はい、どうぞ。

○契約検査課長（山本洋治君） それでは、議案第82号・契約の締結について説明いたします。

説明に当たりましては、別とじになっております9ページ物の資料がございますので、そちらのほうでいたしたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。制限付一般競争入札公告というのが、冒頭あるかと思っております。よろしゅうございますでしょうか。

それでは、まず、1ページの制限付一般競争入札公告をお願いいたします。本工事につきましては、制限付一般競争入札を実施する旨を、平成28年4月7日に公告いたしております。

本市では、設計金額が2500万円以上の建設工事につきましては、原則制限付一般競争入札を行うことといたしております。

次に、中段部分に記載しております、2、競争入札に参加する者に必要な資格に関する事項についてでございます。

まず、（1）企業に関する条件でございますが、建設工事共同企業体、いわゆるJV方式を採用し、JV構成員の数は、2者または3者といたしております。

JV構成員に係る条件でございますが、代表構成員につきましては、建築一式工事に係る特定建設業の許可を受けており、平成28年度八代市競争入札参加資格における建築一式工事の格付がA級である者といたしております。

代表構成員以外の構成員につきましては、建築一式工事の許可を受けており、建築一式工事の格付がAまたはB級であることを条件といたしております。

また、全ての構成員が、八代市内に主たる営業所、すなわち本社、本店を有していること、設計業務等の受託者との関連及び経営事項審査の審査基準日の期間の各項目で記載しております内容の全てを満たしていることも条件といたしております。

次に、（2）企業の施工実績及び配置予定技術者に関する条件ですが、施工実績に関する事項では、代表構成員に関しましては、過去10

年間において、官公庁発注の建築一式工事について、元請または建設共同企業体の代表構成員として施工した1件が1億5000万円以上の完成した工事の施工実績があることといたしております。

次に、2ページの配置予定技術者に関する事項でございますが、代表構成員が満たす条件に監理技術者の配置を条件といたしております。この監理技術者は、工事の施工管理の職務に加えて、下請業者の指導・監督や複雑化する工程管理など総合的な役割を果たすものでございます。

次に、5、入札日程関係でございますが、入札期間を4月28日から5月16日まで設定し、開札を5月17日に行っております。

また、6、契約締結につきましては、議会の議決があった場合は本契約となる旨を定めた仮契約を請負者と締結する旨を記載いたしております。

次に、3ページの入札結果等をお願いいたします。入札には、4つの建設工事共同企業体が参加しております。いずれの建設工事共同企業体も構成員は3者で、全て格付がA級の企業でございます。

入札の結果は、予定価格11億9806万4000円に対しまして、入札金額11億8500万円、落札率98.91%で、藤永組を代表構成員とする、藤永組・豊岡建設・コマダ建設工事共同企業体が落札し、5月23日に契約金額12億7980万円で仮契約を締結いたしております。

続きまして、議案第83号・契約の締結について説明いたします。

次の4ページをお願いいたします。本工事につきましても、4月7日に制限付一般競争入札を実施する旨を公告いたしております。

同じく中段部分に記載しております、2、競争入札に参加する者に必要な資格に関する事項

についてでございますが、(1)企業に関する条件では、清掃施設工事に係る特定建設業の許可を受け、清掃施設工事に係る総合評定値が1200点以上あり、九州管内に営業所を有する者といたしております。

また、設計業務等の受託者との関連及び経営事項審査の審査基準日の期間の各項目で記載している内容を満たしていることも条件といたしております。

次に、(2)企業の施工実績及び配置予定技術者に関する条件でございますが、施工実績に関する事項では、過去10年間において、官公庁発注の清掃工事で、元請または建設共同企業体の代表構成員として施工し、完成した工事の施工実績があることといたしております。

次に、配置予定技術者に関する事項では、施工経験、資格等などの各項目に記載した内容を全て満たす技術者を配置することを条件といたしております。

5ページの入札日程関係でございますが、入札期間を4月28日から5月16日まで設定し、開札を5月17日に行っております。

6、契約締結につきましても、仮契約を請負者と締結する旨を記載した内容の契約を行っております。

次に、6ページの入札結果等でございますが、入札には、1者が辞退され、1者の参加となっております。

入札の結果は、予定価格9億3300万円に対し、入札金額9億2700万円、落札率99.36%で、新明和工業株式会社流体事業部営業本部九州支店が落札し、5月23日に契約金額10億116万円で仮契約を締結いたしております。

なお、辞退された企業にその理由をお尋ねしましたところ、積算の結果、採算が合わない、予定範囲内で対応できないという旨の回答をいただいております。

続きまして、議案第84号・契約の締結について説明いたします。

同じく7ページをお願いいたします。本工事につきましては、4月17日に制限付一般競争入札を実施する旨を公告いたしております。

中段部の2、競争入札に参加する者に必要な資格に関する事項についてでございますが、

(1) 企業に関する条件では、建設工事共同企業体、いわゆるJV方式を採用し、JV構成員の数は、2者または3者といたしております。

JV構成員に係る条件でございますが、代表構成員につきましては、電気工事に係る特定建設業の許可を受けており、平成28年度の電気工事の格付がA級であり、八代市内に営業所を有している者といたしております。

代表構成員以外の構成員につきましては、電気工事の許可を受けており、電気工事の格付がAまたはB級であり、八代市内に主たる営業所を有することを条件といたしております。

また、全ての構成員が、設計業務等の受託者との関連及び経営事項審査の審査基準日の期間の各項目で記載している内容の全てを満たしていることも条件といたしております。

次に、(2) 企業の施工実績及び配置予定技術者に関する条件でございますが、8ページをお願いいたします。配置予定技術者に関する事項では、代表構成員が満たす条件に監理技術者の配置を条件といたしております。

5の入札日程でございますが、入札期間を4月13日から5月6日まで設定し、開札を5月9日に行っております。

6、契約締結につきましても、議会の議決があった場合は本契約となる旨を定めた仮契約を請負者と締結する旨を記載いたしております。

次に、9ページの入札結果等をお願いいたします。

入札には、5つの建設工事共同企業体に参加いたしております。いずれの建設工事共同企業

体も構成員は3者でございます。

入札の結果は、予定価格2億1290万4000円に対しまして、入札金額2億600万円、落札率96.76%で、春日電気を代表構成員とする、春日電気・小林電工・ウェイバー建設工事共同企業体が落札し、5月19日に契約金額2億1248万円で仮契約を締結いたしております。

以上、3つの議案につきまして説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長（福嶋安徳君） 以上の部分について質疑を行います。

○委員（松永純一君） 83号のところですけど、ちょっとお尋ねしますが、一般競争入札で辞退するというのがあるのかなと思ってですね、指名競争入札であれば、指名された後で辞退するというのはありますけども、一般競争入札の場合は、応札したときが参加しとるわけですので、応札した後でも、しないというふうになったのか、一般競争入札の場合の辞退というのは、どういう状況か、ちょっとお尋ねしたいです。

○契約検査課長（山本洋治君） ただいまの御質問でございますけど、この議案第83号につきましては、事前審査方式、先ほど説明いたしました資料の4ページにありますけども、1が競争入札に付する事項ということで、(7)その他のアのところ、この入札は、入札前に競争参加資格の審査を行う事前審査方式による入札であると、この件につきまして、事前審査方式を採用いたしております。こうした条件を満たすところは、事前に審査申請を出されて、市のほうで中身をチェックして、条件を満たしていると、ですので、入札に参加資格はありますということで、先方に通知をいたしておりますところで、先方については入札に参加する条件があるということで、その後、精査したら、こ

の予定価格につきましては、事前公表しておりますので、その金額では応札できないというところで、資格はあって、入札できるけども、この金額では応札できないというところで、辞退というふうな方式をとられたということでございます。

○委員（松永純一君） 意味はよくわかるんですけども、一般競争入札ですから、申し込みをして事前審査をされた、申請した。そこでは、まだ入札、応札してないわけですよ。ですから、そこで、一般競争入札の場合に、あなたは資格はあるんですよという通知が行ってもですよ、行っても、その人は入札しなくてもいいわけですよ。予定価格より、自分が計算したら、それ以上になったということであれば、辞退ということに、それがなるのかなあという気がするんですけどね。

今回、これで別段、特段、何も異議はありませんけども、ここはちょっと、いわゆる地方自治法がいう一般競争入札、指名競争入札、随意契約、競り売りという4つの契約の中では、辞退というのはどうかなと、私はそう思いますので、今回これに別段異議を申し立てるわけじゃないですけど、というふうに感じましたので。

○契約検査課長（山本洋治君） 工事とか工事関係業務委託につきましては、電子入札を行っております。先ほど入札期間を一定範囲、入札期間を設定しております。その間で、入札するなり、辞退するなりになるとですけども、行政が、この後開札したときに、初めて入札したのかどうか、辞退したのかどうかというのがわかりますので、あくまでも開札して、開けてみたところ辞退だったというのが判明したという状況でございます。

○委員（増田一喜君） 関連したところですけど、同じところなんですよ。辞退ということは、今、松永委員が言われましたように、辞退した。通常であれば、一般競争入札が実態のと

ころで競争が成り立っていないということじゃないのかなあ。今の説明でも、事前審査後、その連絡をしたと。参加資格はありますよ、要件は満たしますよと連絡した。その後に、自分たちで積算されるんでしょうけれども、それで採算が合わないから辞退しますちゅうことが言うてきた。けども、電子入札したら、執行部としては、それが、双方言葉で言われたとしても、参加して数字を出されるんだろと思われたんかしらんけども、開札した結果、辞退になってないと、これが辞退されたとわかりませんと言われるけれども、それでいいのかなあ。確認はしてませんが、聞いた話では、県のほうでは、辞退して、1者入札ちゅう形になったら、大抵もう、やり直しをされるような話を聞いたんですけど、ここらあたりどうなってますかね。県に合わせないんですかね。もう、これだけは市の単独ですよというような話をされるんですかね。どうなんですか。

○契約検査課長（山本洋治君） 市のほうでは、1者入札でも有効といたしております。と申しますのも、この件に限らず、ほかの案件もしかりなんですけども、結局、どこが入札をするのか、辞退するのかということは、その当事者にとってみたら、わからない状態ですので、入札、指名とか、こうした形の一般競争入札だったとしても、指名を受けたりだとか、状況を見たところについては、多分入札に応じるんじゃないかなあというところでの対応をとられたと思います。ということで、結果として、1者となったとしても、その間については、ほかのところも入札ということも前提としたところでの対応になるかと想定できますので、そこにおいては、競争性は発揮されると思いますので、1者入札であったとしても、本市におきましては有効という形を取り扱っております。

○委員（増田一喜君） いや、そういうんじゃない、どうしてそこが違うのかなあ。熊本は、

それは認めないような話です。まあ、確認してないのはしてないですけど、そういう話を聞いたから。それは、こっちのほうでは、市のほうでは県あたりに問い合わせなんかして、確認されてるんですか。

○契約検査課長（山本洋治君） 1者入札についての有効、無効という、県のですね、県の状況については確認はいたしておりません。

以上でございます。

○委員（増田一喜君） ちょっと質問を変えますけども、ここは、今2者応札したような形になってますよね、一応、この表では。もうちょっとふやすような、よく言われるんだけど、10者ぐらい欲しいなああと、競争される人たちが10者ぐらい欲しいなあとかいうふうなことで、2者ですけども、もうちょっと5者なり、6者なりふやす、より10者に近いような数字になるようなことは考えられなかったんですか。

○契約検査課長（山本洋治君） 当初、いわゆる条件をつけております、清掃施設工事に係る特定建設業だとか、総合評定値とか、九州管内に営業所を有するとか、こうしたことでの条件を付したときに、大体どれくらいの業者数があるんだろうかということは、なかなか契約検査課のほうで把握できない部分がありましたので、発注課と協議して、このような条件でいけば、ある程度の該当する業者数はあるんじゃないかなというところでの条件づけをしたところでございます。

ただ、結果として、2者が事前審査の申請されて、2者とも資格がありますというふうなところで通知しましたが、結果としては、1者参加の1者辞退というふうになったところでございます。

○委員（増田一喜君） じゃあ、もう一つほかの質問をします。

この制限付一般競争入札ですね、この公告さ

れる、この要件ちゅうんですかね、これに示してある要件、これは契約検査課でつくられたんですか、それとも、担当課でつくられたんですか。大体どういうふうに、こういうのをつくるときに制作されるんですか。どこが主体なんですか。

○契約検査課長（山本洋治君） 本件だけでなく、一般的に工事に関しましては、なるべく発注課の意見を参考にしながら、聞きながら、協議しながら決めているところでございます。

○委員（増田一喜君） 発注課が主体になるんですか。ということは、契約検査課は、ただ発注課がやってきた、それをさらさらっと見て、ああ、これでいいわいという感じで、入札にかけていかれるということでしょうかね。だから、何か、こういうふうになってきたときの話ちゅうのは、契約検査課で全部対応されるわけですか。

○契約検査課長（山本洋治君） あくまでも発注課が主体的に、発注課の意見を含めながら、協議しながらやっているのが現状でございます。ただ、いかんせん、こうした具体的な工事となれば、契約検査課では、そうした具体的な工事の内容、それと、どのような条件が必要かということにつきましては、契約検査課ではなかなかわかりにくい部分がございますので、そうした内容に関しましての条件につきましては、基本的には発注課の意見を尊重しながら、なおかつ協議しながら進めているというような状況でございます。

○委員（増田一喜君） ああ、そうですか。

契約検査課は専門的に内容がわからないということで、発注課のほうの意見を優先されるというふうな、大体、前例があったら、ずっとそれを踏襲してきたのは、中心にしていますよね、大体ね。工事内容によっては、それは少しは変わるかもしれませんが、会社の規模とかですね、そういうのは変わるかもしれませんが

れども、ということ、途中で都合よく、文言なんかも変えられるちゅうこともあるわけですね。そこだけちょっと聞いておきたいなと思って。

○契約検査課長（山本洋治君） 案件ごとに、基本的には同じような案件であれば、基本的には同じ文言になっているんですけども、案件ごとによっては、精査する部分があればですね、精査した上で、条件については変える部分も、当然出てまいります。

以上です。

○委員（増田一喜君） ちょっと担当課のほうにも聞きたいんですけど、課長のほうに聞きたいんですけど、ここには出てないことなんですけど、そういうことがあり得るちゅうことですよ。

○環境センター建設課長（山口敏朗君） まず、この83号の件につきましては、プラント工事という特殊な機器類を入れる工事というところになりますので、こちらの企業に関する条件の中で、清掃工事に係る総合評点、P点というのを、一応1200点というところは設定させていただいたところですよ。

この設定をした点数におきましても、七、八社参加ができるというところの実績を確認できたものですから、そういった条件をつけさせていただいたと。市としましては、30年間確実にプラントをしなければならないというところで、確実な実績を持っているところというところで、そういった条件をつけさせていただいたところでございます。

ほかの案件につきましては、大体10者というのが基本的なラインということで聞いておりますので、それに近いラインのところを考えて、契約検査課と協議をさせていただいたところでございます。

以上でございます。

○委員（増田一喜君） このプラントですか、

そっちのほうは、もうわかりましたけども、後で担当課のほうにお聞きしたいと思いますので、よろしく申し上げます。

○委員長（福嶋安徳君） しばらくお待ちください。

○契約検査課長補佐（一美晋策君） 契約検査課一美でございます。済みません、補足でございます。

先ほど、案の策定につきまして御質問がありましたけども、うちのほうで、発注課のほうと協議をした後にですね、選定案を策定いたしまして、入札参加資格者審査会という審査会を開いて、委員のもとで決定をさせていただいております。一応委員、今年度につきましては11名の委員の承認をもって、この案で入札を出すか、否かという判断をさせていただいておりますので、最終的な決定はそちらになるということをお報告申し上げておきます。

以上です。

○委員長（福嶋安徳君） いいですか。

ほかにありませんか。

○委員（松永純一君） 私、まだ、さっき途中だったんですけど、さっき山本課長が言うようにですね、開札して初めて1者が応札したというのが、入札参加者がわかるわけですよ。ですから、それまでは辞退したというのは、どこが辞退したかというのは、一般競争入札の場合は生じてこないんじゃないかなと思うんですよ。いや、1者でもいいんですよ、一般競争入札ですから、競争性は働いておりますし、1者になったからといってですね、そこが無効になるわけでもない、有効ですから、適切か、適切でないかは別にしてですね、有効ですから、いいんですけども、わざわざここにですね、株式会社タクマ九州支店が辞退したというのはですね、これは辞退ということじゃなくて、入札に参加しなかったわけですから、辞退したという表現はおかしいんじゃないかなと思うんですけど

どね。開札して初めてわかるわけでしょう、参加した人が、参加した業者というのがですね、1者だというのが、あるいは2者だったのか、3者だったのか。

○契約検査課長（山本洋治君） この件につきましては、例えば、今回一般競争入札ということでございましたけれども、指名競争入札というのが、また別個あります。市のほうから業者を指名をしてから、その一定期間の間に入札してもらおう。そのときも、業者によっては、いろいろな状況がございますので、辞退ということも、実際あります。そのときのやり方も、パソコン上のところの辞退か何かをクリックしたら、それで辞退になるということでもありますので、指名競争入札においても、指名を受けたけれども、辞退しますちゅう案件もございます。それも、開札して初めてわかるような状況でございます。

それと同じように、参加資格があつて、参加しなかったときに、何もしなければ、そのままほっとかしたら、入札不参加という形になるかと思えます。入札不参加じゃなくてから、指名を受けて、入札の資格があつて、入札に参加することはできるけども、入札に参加しないから、辞退というふうな手続をとられたかと思えます。仮に、辞退という手続をとらなければ、入札不参加という形になりますので、その差が出てまいりますので、システム上辞退という手続をとられたんじゃないかならうかなと思えます。

○委員（松永純一君） そうしたら、辞退届とかというのを、具体的に出されたわけですか。資格があつて。

○契約検査課長（山本洋治君） 辞退届という、電子入札の場合のパソコン上での操作になりますので、ちょっと見たことはないんですけど、画面を操作することによってから、辞退という手続が終了すると。ですので、事前に、入

札期間に契約検査課に、自分のところは辞退しますのでという、口頭でとか、文書での申し出はございません。あくまでも電子入札システム上のことになりますので、それは、あくまでも開札して初めてわかるという状況でございます。そのようなシステム上なっております。

○委員（松永純一君） では、委員長確認ですけど、そうしたら、電子入札の、いわゆるパソコンでクリックするところをしなかったりした場合には、辞退と確認ができるわけですね。

○契約検査課長（山本洋治君） そのときに、辞退という手続を、システム上とってなければ、入札不参加という取り扱いになります。

結局、その間に入札できるのにも、入札の札も、金額の札も入れなかった、辞退という手続をとらなかったとなれば、入札不参加という取り扱いになります。

あくまでも辞退というのは、自分のところが、この件につきましては辞退をしますという意味表示でございますので、それは辞退という、入札不参加じゃなくてから、入札辞退という取り扱いにいたしております。

○委員長（福嶋安徳君） お二方に申し上げます。内容の厳しい、なかなかわからない部分があるようでございますので、後ほど契約検査課のほうで、担当課と十分お話いただければというふうに思えます。（「はい」と呼ぶ者あり）

○委員（村上光則君） 先ほど、増田委員からも指摘がありましたように、県は、この一般競争入札は1者になった場合はやり直すということになつとるそうですね。八代も、これまではそういうやり方をしてきたと、業者の皆さん方は言われるわけですよ。今回ですね、こういう件が起きて、別の件ですけども、そういうことが起きて、おかしいなあということで、その組合の皆さん方が、結局辞退をしてしまった。ところが、1者に入札ができてしまった

と。そこに非常に、組合の皆さん方は不信を持っておられるわけですね。これまで、今まではそういうことはなかったと、また、今まではやり直しをしようとしたということを知ったわけですが、こういう1回、1回、入札方式を変えていくような気がするわけですが、いかがですか。

○契約検査課長（山本洋治君） 入札方式につきましては、先ほど申しましたとおり、一般競争入札と競争入札、随意契約というやつですね、あくまでも、一般競争入札を行いますのは2500万円以上の案件につきましては、原則一般競争入札を行っております。ただ、1件、1件ごとに、案件が違いますので、当然状況も異なってまいります。一般競争入札をやるにしても、当然条件をつけまして、その条件を満たしたところが参加すると、事前審査の場合ですよ。事後審査の場合には、全部入札した後に、一番低いところの価格のところだけについて、事後審査という形になります。ということで、案件ごとに、どの方式でやるかを考えておりますので、それによっては変わってまいりますけれども、似たような案件について、基本的には似たようなやり方をするような形でいたしております。ただ、案件が多いので、ちょっとまた、かかってまいりますことは、そうした状況も起こり得るちゅうことでございます。

○委員（村上光則君） 先ほど、一美さんから、検討委員会じゃないけども、その中で最終的には決まるということをおっしゃいましたですね。私は、その中で、いろいろ変わってじゃないだろうかというふうに思うんですけどね。どうですか。

○契約検査課長補佐（一美晋策君） 今しがたの1者が有効か、無効かということについてはですね、これまで市としての取り扱いは統一して、1者有効ということで取り扱っております。

その委員会で検討する部分については、この

文面ですね、文面の資格が、このような資格、あるいは指名業者、指名競争入札であれば、指名業者について、こういう指名業者の内容でよろしいかというのを審議していただくということで、1件が有効であるか、否かというのは、これまで市としては、統一的に1者有効というような形で入札を進めてまいっておるところでございます。

○委員長（福嶋安徳君） あと、詳しい点につきましては、担当課のほうで御協議お願いいたします。

ほかに御意見ありませんか。

○委員（古嶋津義君） 今の件ですが、プラント設備ですから、専門的なことになろうかと思いますが、今、1者という話が出ておりますが、参加資格の事前審査について、2者だったということで、大変厳しかったんじゃないかなというふうに思っております。特に、9億3300万、消費税込みでありますけれども、この金額について、1者さんは応札をされた、1者さんは辞退をされたということになれば、辞退されたときは、採算が合わないということでありましたが、その辺の採算の合うように積算はしてあるんでしょうか、山口課長にお尋ねをします。

○環境センター建設課長（山口敏朗君） 予定価格、設計価格につきましては、重立ったところから、5者から設計のための、まず、見積り調査をしております。その設計額を見まして決めているところでありますけれども、どの部分が合わないかわからないところではあるんですけど、こちらで、そういった設計、機器に関する設計額を決めまして、その後、間接工事の算定につきましては、廃棄物処理施設整備の必携にあります積算基準から算出して、この価格を出しております。工事価格といたしましては、直接工事費、これを設計書から計算をしたところ、それから、間接工事費、そういった示

された積算基準から算出したところで、この設計額を出しているところではございます。

この額がどうだったかというのは、ちょっと、我々としてはこの範囲内で工事ができるだろうというところで積算したところではございます。

以上でございます。

○委員（古嶋津義君） 事前に見積りをとられた業者さんは、ちなみに何者ぐらいありましたか。

○環境センター建設課長（山口敏朗君） 5者とらせていただきました。

○委員（古嶋津義君） 5者の方は、これを見れば、応札はなかったということですね。はい、結構です。後で申し上げます。

○委員長（福嶋安徳君） いいですか。答弁要りませんか。

○委員（古嶋津義君） はい、答弁要りません。

○委員長（福嶋安徳君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（福嶋安徳君） それでは、ないようでございますので、ここで質疑を終了します。

意見がありましたら、お願いします。

○委員（古嶋津義君） 今議題になっておりましたマテリアルのリサイクル、プラント設備がありますけれども、参加資格、条件等が、少し厳しいとは言いませんけど、応札がなかったというのは、その辺がちょっとあるんじゃないかと思っておりますので、その辺のところを、もう一度事前審査等の要綱等をですね、もう一回見直しをさせていただきたいと思っております。

と同時に、見積もりをとられて、この9億3300万が妥当であるとしたならば、この入札の結果、99.36%は、少し高いんじゃないかと申し上げて、意見とさせていただきます。

以上です。

○委員長（福嶋安徳君） 十分意見を酌み取っていただきますように。

ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（福嶋安徳君） ないようです。

これより採決いたします。

まず、議案第82号・八代市環境センターマテリアルリサイクル推進施設建築工事に係る契約の締結については、可決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（福嶋安徳君） 挙手多数と認め、本案は可決されました。

次に、議案第83号・八代市環境センターマテリアルリサイクル推進施設プラント設備工事に係る契約の締結については、可決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（福嶋安徳君） 挙手全員と認め、本案は可決されました。

次に、議案第84号・八代市環境センターマテリアルリサイクル推進施設建築電気設備工事に係る契約の締結については、可決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（福嶋安徳君） 挙手全員と認め、本案は可決されました。（「ありがとうございます」と呼ぶ者あり）

小会します。

（午後2時20分 小会）

（午後2時23分 本会）

◎請願第2号・障がい者に対する就労・雇用機会の確保について・第1項

○委員長（福嶋安徳君） 本会に戻します。

それでは、次に進みます。

請願・陳情の審査に入ります。

当委員会に付託となっておりますのは、新規

の請願1件です。

それでは、請願第2号・障がい者に対する就労・雇用機会の確保について・第1項を議題とします。

要旨は、文書表のとおりであります。念のため、書記に朗読させていただきます。

(書記、朗読)

○委員長(福嶋安徳君) これについては、いかがいたしましょうか。何か聞きますか。

○委員(増田一喜君) ここに紹介者になっている議員さんもおられますけれども、この1番のところですね、清掃センター、これはできるのは、まだちょっと、来年かな、だったですけど、ここに書いてある障害者福祉事業所の利用者が出てきてありますけれども、ほかにも、こういうペットボトルの資源とか、こういう分別作業をされているところは、民間でもあると思うんですけどね、これをなぜ、全体みたいにならずに、障害者福祉事業所という特定したような形になっとんのですかね。そこまで見とるんでしょうかね。そこを、どっかで、誰かで、わからんとですかね。

○委員長(福嶋安徳君) 一応建設、環境センターのほうにお伺いいたしましょうか。

○委員(増田一喜君) はい。

○委員長(福嶋安徳君) どうですか。

小会いたします。

(午後2時27分 小会)

(午後2時28分 本会)

○委員長(福嶋安徳君) それでは、本会に戻します。

○環境センター建設課長(山口敏朗君) 今回の請願・陳情につきまして、今の経緯、まず、そのあたりから説明させていただこうと思いますが、よろしいでしょうか。

○委員長(福嶋安徳君) はい。

○環境センター建設課長(山口敏朗君) 現

在、市が収集しましたペットボトル、こちらにつきましましては、八代市の障害者計画の障害施設、障害者団体にペットボトルを提供することにより、障害のある人たちに処理業務等の就業機会を提供し、社会的自立を支援するとして、現在NPO法人WEさん、それから、八代学園さんほうに安価で提供いたしまして、リサイクル業務等の就業機会の提供を行っているところです。こちらについては清掃センター、廃棄物課のほうで、業務としてやられております。

WEさんや八代学園さんでは、ラベル剥がし等の処理を行い、リサイクル業者へ販売し、収入を得られているという状況でございます。

昨年度、27年4月に、NPO法人WEさんのほうから、環境センター内に障害者に仕事と場所の提供を考慮していただきたい旨の要望が市長のほうになされておまして、マテリアルリサイクル推進施設の基本設計が終わった段階で、一度お話し合いをさせていただいております。

また、本年1月に、請願・陳情に出されておられます、八代市障害者福祉事業所協議会さんのほうから、協議依頼という形で、これは健康福祉部のほうに出されておられますけど、その中の項目の一つとして、清掃センター移転に伴う作業委託についてという項目が挙げられておられます。こちらのほうにつきましましては、その時点では、現在検討しておりますということでお答えをしているところです。

我々といたしましては、昨年の、27年4月、大分の福宗環境センターで障害者の雇用の状況の視察、それから、27年5月には、水俣市社会福祉事業団のわくワークみなまたで、障害者によるペットボトルの処理事業についての視察を行うなどして、マテリアルリサイクル推進施設の中で障害者の方が作業できるエリアを確保できるかを検討してまいりました。

実施設計の中で、障害者の方と共同で作業が

できるスペース、先ほどのちょっと、議決案件のほうに載せておりましたページで、8ページを見ていただけますでしょうか。ちょっと図面の中のほうが小さく、先ほど契約案件のほうで、こちらのほうでお出ししました中で、マテリアルリサイクル推進施設の平面図、2階部分になります、8ページになろうかと思えます。こちらを見ていただきますと、中央のプラスチック製容器包装、その上のほうに、字が小さくございますけれども、遺物除去室、黄色いラインの上のほうに、少しスペースがございます、高速回転破砕機という赤枠で書いてある下のほうでございます。そこに小さい文字で、遺物除去室というふうに記載しておるんですけども、こちらのほう、約40平米になりますけれども、こちらのほうで、そういった作業ができるスペースとして、実施設計の中で確保してきたところでございます。

現在、まだ最終的な協議を行っておりませんが、障害者の方の専用としての整備というのは、ちょっと困難な状況でありましたことから、このスペースを利用して、こういった形で障害者の方の就労の機会を提供できるか、今後でもですね、障害者福祉事業所の方々とお話をさせていただいて、よりよい方法を検討していきたいというところで、今考えておるところでございます。

今、陳情・請願につきましては、そういった状況でございます。

以上でございます。

○委員（増田一喜君） ということは、ここに来ておる、この障害者福祉事業所協議会といったら、こういう八代学園とかWEさんとか、そういうのもまざってされてるちゅうことですか。

○環境センター建設課長（山口敏朗君） そうですね、一応先方からいただく名簿には、20グループ以上、そういった事業所の方が入って

おられるというところで、WEさんでありますとか、そういった、WEさんにもともと加盟されている事業所でありますとか、八代学園さんでありますとか、そういったグループも入っておられるというところで聞いております。

○委員（増田一喜君） そういうところも一緒になって、ここができれば利用されるという見通しがあるわけですね。

○環境センター建設課長（山口敏朗君） はい、それを継続できるようにやっておりますし、今後また、こういった作業ができるかということについて、今後協議させていただきたいなと思っておるところでございます。

○委員（百田 隆君） 以前、私たちもこういう施設を見に行ったときに、やっぱり障害者のための、そういう場所が設けてあるというふうに聞いたんですけど、今回の話では、2階にその場があるということですね。だけど、障害者ですから、同じするなら1階にできんのですかね。

○環境センター建設課長（山口敏朗君） 1階部分につきましては、重機類が動いたり、一般車両、それから、収集車両、頻繁に出入りしますので、ちょっとそのあたりは安全の確保が難しいかなというところですよ。

2階につきましては、先ほどの図面で申し上げますと、黄色のライン、ここの部分がベルトコンベヤーが横に走っております、こちらで、大体遺物を除去するラインになっております。そこの連携と、異物除去室を連携させまして、障害者の方とですね、共同に作業できる場所ではないかというところで考えているところです。

施設のほうは、上下の移動につきましては、エレベーターも設置しておりますし、そういった方々が来られた場合のことを考えまして、トイレ設備、そういったものも一緒に整備するという方向で行っておりますので、支障はないか

などというふうに考えておるところです。

○委員（百田 隆君） 他市を見学したときにですね、1階にしてあったから、ああ、これならよかなと感じたことがあったっですよ。ただ、今説明では、そういう機能的な面がですね、張りめぐらせてあったらですね、仕方がなかと思えます。わかりました。

○委員長（福嶋安徳君） いいですか。

○委員（古嶋津義君） 異論はなかったですが、ショッピングセンターあたりでも、買い物かごとか、そういう洗浄を障害者の方にやらせているようではありますが、今、百田委員のほうから話が出ましたが、隣に高速回転破砕機もあるようでありますので、2階について、安全性の面からは、検討はしてなかったでしょうが、その辺のところはいかがですか。

○環境センター建設課長（山口敏朗君） この高速回転破砕機につきましては、完全に隔離された部屋で行う形になっておりますので、異物除去室とは直接つながっている状況ではございません。

ただ、異物除去室と隣のベルトコンベヤーのラインにつきましては、横のほうに配置される形になりまして、壁のほうは、ちょっとございませんので、こことのですね、距離感と安全性というのを、どのように確保していくか、そのあたりも障害者団体の方とお話をしていかなければならないというところでございます。

○委員（古嶋津義君） ペットボトルだから、後で繊維をとって、着物にされるとか、北京オリンピックじゃ、大分中国に、熊本でも、熊本国体のときは選手のユニフォームもやったような状況であります。今はもう、そういうことは、少し採算が合わないということで、今はほとんどが圧縮して、どこかに送っているようでもありますけれども、そういう状況の中ですけど、まあ、障害者のために、どっちみち、洗浄はせんばんとでしようけん、その辺のところ

で、危険性のないようにですね、その辺のところを配慮をしながらやっていただければと思います。

以上でございます。

○委員（野崎伸也君） 今ほどより質問がございまして、障害者雇用の件についてはですね、皆さん方、委員の皆さん方が、非常に重要な案件だという認識を持っておられるということとあわせて、また、設置の際にはですね、雇用の際にも安全面に留意してお願いしたいというような話もされております。

そういったこともありまして、今現在もですね、環境センターのほうでもですね、働いておられる方もおられて、そのまま引き続きというのがあれば、非常にいいだろうというふうに思いますし、市内のほうですね、就業する場所が少ないというのは、もういろんな場面でも聞いております。環境センターの建設の際にもですね、そういった話もですね、議会のほうから、議員のほうからもですね、何点か意見があったというのがありますので、私としては、もう、皆さん賛成でですね、採択のほうで、していただければと思います。よろしくお願いたします。

○委員長（福嶋安徳君） ほかに御意見ありませんか。

それでは、小会します。

（午後2時37分 小会）

（午後2時38分 本会）

○委員長（福嶋安徳君） それでは、本会に戻ります。

この請願2号・障がい者に対する就労・雇用機会の確保について・第1項は、野崎委員から採択という御意見が出ております。

その意見をもう一度出していただければ幸いです。

○委員（野崎伸也君） 皆さん方で満場一致で

ですね、この案件については採択の、採決をですね、していただければというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（福嶋安徳君） それでは、この請願第2号については、障がい者に対する就労・雇用機会の確保について・第1項は、採択と決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（福嶋安徳君） 挙手全員と認め、本件は採択することにいたしました。

○委員（百田 隆君） 沖田って人が発議者になっとなつた、あとののは請願者になつとる。これは全市的に取り組まないかんけん、会派で全部打診してからせんばたいな。俺はどぎゃん思う。

○委員（松永純一君） 向こうが知らっさんじゃなかですか。こっちから言うわけいかなけ。（聴取不能）

○委員長（福嶋安徳君） そのこのところは、いろいろ御配慮いただきたいと思います。

それでは、次に進みます。

以上で、付託されました案件の審査は全部終了いたしました。

お諮りいたします。

委員会報告書及び委員長報告書の作成については、委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（福嶋安徳君） 御異議なしと認め、そのように決しました。

◎所管事務調査

- ・都市計画・建設工事に関する諸問題の調査
- ・生活環境に関する諸問題の調査

○委員長（福嶋安徳君） 次に、当委員会の所管事務調査2件を一括議題とし、調査を進めます。

当委員会の所管事務調査は、都市計画・建設

工事に関する諸問題の調査、生活環境に関する諸問題の調査、以上の2件です。

当委員会の所管事務調査について、何か御意見ありませんか。

○委員（中山諭扶哉君） 当委員会ですね、一番すぐにですね、道路についてですね、今回の大震災、震災ですね、被害を受けたところがあると思いますので、できれば、管内の調査をしたいというふうに思いますけど、皆さんの御意見、いかがでしょうか。（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（福嶋安徳君） 今、副委員長が言いますように、今回の震災のいろいろあれが出ております、災害が。そういう中で、建設委員会といたしましても、今、災害の状況を調査するべきと考えておりますので、執行部とそういった旨をお聞きしながら、災害場所を見てもらい、皆さんの御意見を求めたいというふうな考えのようであります。どうぞ、その旨よろしくお願ひしたいと思います。

日程については、いつごろがよろしいか、お諮りしたいと思います。

定例会の前がよかったですよ、大体。

○委員（野崎伸也君） 閉会中にちゅうこと。

○委員長（福嶋安徳君） はい、閉会中がよかじゃなかですか。

○委員（松永純一君） 閉会中でしょう。

○委員長（福嶋安徳君） 開会中がよかか。いやいや、閉会してからがよか。

○委員（松永純一君） 閉会してからでなけりゃ、委員長も忙しかでしようもん。ばってん、委員長報告もあるけん。

○委員長（福嶋安徳君） それでは、閉会からの日程にしたいと思いますが、いつごろがよろしゅうございますか。

○委員（松永純一君） 最後の週で、21日が最終日だけん。21日が最終日でしょう。最後の週ぐらいでどぎゃんですか、6月の。

○委員長（福島安徳君） 最後の週。それでは……

○委員（中山諭扶哉君） 22日でどがんですか。

○委員（増田一喜君） 21日が最終日だろう。

○委員（野崎伸也君） 21が最終日、あ、次の日、次の日ね。

○委員（古嶋津義君） 22は何曜日。

○委員（野崎伸也君） 水曜日です。

○委員（村上光則君） 参議院の公示日だろう。あんたどま忙しかろうもん。

○委員（古嶋津義君） おどまいかん。

○委員（村上光則君） 23日以降たい。

○委員（中山諭扶哉君） 23日でもいいですか。いかがですか。

○委員（野崎伸也君） 22はいかんと。朝から。じゃあ、23日午前中で。

○委員長（福島安徳君） 小会します。

（午後2時45分 小会）

（午後2時48分 本会）

○委員長（福島安徳君） それでは、本会に戻します。

ただいま中山委員より提案がございました管内調査については行うこととし、6月23日予定いたしたいと思います。

また、内容については、委員長に御一任いただきたいと思います。（「9時ですか」と呼ぶ者あり）時間はに。9時集合で。開会して、その後出発します。

所管事務調査については、何か御意見ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員（古嶋津義君） 当日は防災服でしょうか。

○委員（松永純一君） 防災服で。

○委員（中山諭扶哉君） 防災服がよかと思

ます。

○委員長（福島安徳君） それでは、以上で、所管事務調査2件についての調査を終了します。

次に、閉会中の継続審査及び調査の件についてお諮りします。

所管事務調査2件については、なお調査を要すると思いますので、引き続き閉会中の継続調査の申し出をしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（福島安徳君） 御異議なしと認め、そのように決しました。

以上で、本日の委員会の日程は全部終了いたしました。

これをもって、建設環境委員会を散会いたします。

（午後2時49分 閉会）

八代市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

平成28年6月14日

建設環境委員会

委員長